



The
85th
Anniversary
since 1938

TOHO College of Music
TOHO Junior College of Music
TOHO Graduate School of Music

Guide 2024

Konzerftach

Piano

Vocal

Wind, String and Percussion Instruments

Music Creation

Music Therapy

Teaching

Performance, the Arts and Culture Studies

東邦音楽大学

東邦音楽短期大学

東邦音楽大学大学院



学校法人三室戸学園のはじまりは1938年――。

以来、「音楽を幹にした豊かな人間性の育み」を目的とする一貫教育を通じて、音楽の最前線で活躍し、社会に貢献する人材の育成に取り組み、数多くの有能な人材を輩出してきました。

本学園が推進する学びの中軸は「音楽人」としての資質を磨く場所。しかしそれは音楽のみを究めることを指しているわけではありません。

音楽教育の本質を大切にしながら、社会貢献はもちろん、世界の人々と堂々とわたりあえるバランス感覚のとれた人間への成長を促すこと。それが本学の使命だと考えます。

#東邦だからできること
One to One Quality

CONTENTS

東邦だからできること	4	器楽専攻 管弦打楽器コース	45
東邦ウィーンアカデミー	12	器楽専攻 電子オルガンコース	46
東邦スタンダード	16	シンガーソングライター・アーティスト専攻	47
■ 東邦音楽大学	21	音楽教養専攻	48
Konzertfach (演奏専攻)	22	学生インタビュー②	49
ピアノ専攻	24	■ 東邦音楽大学大学院	51
声楽専攻	26	音楽表現専攻	52
管弦打楽器専攻	28	大学院生からのメッセージ	54
音楽創造専攻	30	指導陣	56
音楽療法専攻	32	卒業生からのメッセージ	58
教職実践専攻	34	特別対談	60
パフォーマンス総合芸術文化専攻	36	キャンパスライフ	63
学生インタビュー①	38	キャンパスマップ	66
■ 東邦音楽短期大学	41	学生サポート	70
声楽専攻	42	キャリア支援	72
器楽専攻 ピアノコース	43	沿革 / アクセスマップ	74
器楽専攻 ピアノ指導者コース	44	学長挨拶	75

T

O

H

O

T

O

H

O

グローバルな活躍を目指す 「音楽人の育成」

国際的な視野で学ぶ東邦の音楽教育。

その学びの柱でもある「オーストリア ウィーン研修」や

建学の精神に沿った学修支援プログラム「東邦スタンダード」により、

音楽分野はもちろんのこと、さまざまな分野でも活躍できる

グローバルな音楽人へと成長します。



One to One 教育へのこだわり

学生一人ひとりを見守り個の成長を促す

東邦の学びの中核である「One to One」。

教員は学生の個性を尊重し成長を見守り、学生は教員を信頼する。

こうした当たり前とも思える関係性を重視する校風が、東邦には根付いています。

少人数制による学びのもと、音楽力の向上はもちろん、

社会で活躍するためのスキルやマナーを身につけ、個の成長を促します。

またこうした取り組みは、単に一人の教員と学生との関係にとどまらず、

専門分野の垣根を超えた仲間、先輩、後輩によって、

高度な音楽技術と情操豊かな人間性を育む礎となっています。

■ 三室戸学園の建学の精神

音楽芸術研鑽の一貫教育を通じ、
情操豊かな人格形成を目途とする

この建学の精神の下に、「文化国家の形成者にふさわしい音楽を身に付けた文化人として有能なる音楽家および音楽教員を育成するとともに、幅広い教育を通してバランスのとれた心豊かな人間を育て、社会のニーズに応え活躍できる優れた人材を送り出す」という使命・目的を持って教育を行っています。

T

O

H

O



ウィーンで学ぶ 世界基準の視点

東邦ウィーンアカデミーへの留学体験

音楽の都であるオーストリア、ウィーン。

世界最高峰の音楽や芸術に触れることができる留学体験は、
学生たちの人生においても大きな一歩となるに違いありません。

異なる文化の地で学修し、生活をしていくなかで、
学生たちは音楽表現においても人間性においても大きな成長を遂げます。

本学の必修科目である「東邦ウィーンアカデミー」は、
そうした世界基準の技術習得と自己実現のための新たな発見を促す
本学の中心的な学びとなっています。



T

O

H

O



東邦の学びの特長 “4つの基本方針”に沿った教育

「音楽人」としての成長のために

東邦の学びは“4つの基本方針”を軸として、
音楽教育の質的向上と、そのための教育環境や社会貢献の整備を推進しています。
これらを体系的にまとめた実践的なプログラムが
「東邦スタンダード」と呼ばれる本学独自の学修プログラムになります。
この学びのもと、学生はさまざまな体験の中から、知識、技術、感性を磨き、
「音楽人」としての成長を確かなものにします。

■ 4つの基本方針

少人数を基本とした授業や実技レッスンで、個の成長を引き出しながら、
確かな音楽力としなやかな人間力を育むことを目的としています。

一貫教育の実践

中学から大学・大学院まで一体となった
音楽教育活動を行っています。

少人数制の教育

One to Oneの教育で一人ひとりの個性
と成長を引き出します。

国際化(交流)の推進

オーストリアのウィーンで世界スタン
ダードの音楽体験を得られます。

地域社会との交流(地域社会への貢献)

音楽を通じて地域に貢献する取り組み
を積極的に行っています。

T

O

H

O

東邦ウィーンアカデミー

TOHO Wien Akademie

ヨーロッパの文化に触れながら 国際感覚と音楽技術を磨く

「東邦ウィーンアカデミー」と呼ばれるこの科目は、外国文化や芸術に触れながら国際感覚を養い、世界基準の技術習得を目指す本学の中心的な学びです。オーストリア、ウィーンにある本学の研修施設で、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団メンバーやウィーン国立音楽大学の教授ら著名な演奏家・教育者から直接レッスンや授業を受け技術を磨いていきます。また国立歌劇場やウィーン楽友協会でのオペラ&コンサート鑑賞や美術史美術館の見学など、世界最高峰の音楽や芸術に触れることで、芸術家として必要な知識を深めることはもちろん、自己の感性を磨き、音楽表現においても人間性においてもさらなるステップアップを目指します。



◎カリキュラム

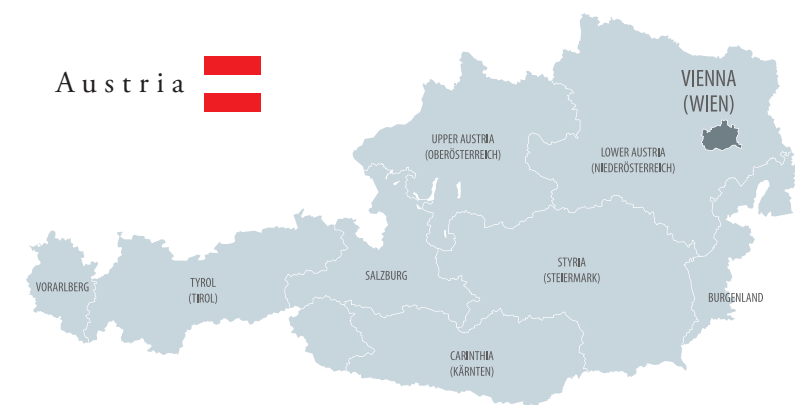
大学生		大学院生	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 専攻実技レッスン ■ オーストリア事情（歴史と音楽） ■ 音楽史跡研究 ■ 音楽鑑賞（オペラ・コンサートなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 楽曲解釈 ■ 文化史体験 ■ 自由研修 ■ 修了演奏会 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専攻実技レッスン ■ 様式学基礎 ■ 様式学概論 ■ 様式学実践 ■ 自由即興演奏法 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 楽曲表現法分析 ■ 様式的演奏法 ■ ドイツ歌曲歌唱法 ■ ソロ・コレペティツィオン ■ 修了演奏会 ■ 様式的即興演奏 ■ ドイツ語朗読法 ■ 個人研究

※講義内容は変更になる場合もあります

対象

- 大学3年次 必修
ピアノ専攻/声楽専攻/管弦打楽器専攻/
音楽創造専攻/音楽療法専攻/教職実践専攻
- 大学1年次～4年次 必修 [年2回]
Konzertfach（演奏専攻）
- 大学院1年次 必修
- 短期大学2年次 選択

※研修費用は学費に含まれています
（短期大学は別途研修費用が必要となります）。
※対象専攻は変更する場合がございます。
詳細は本学ウェブサイトにて随時お知らせいたします。



東邦ウィーンアカデミーの指導陣

ピアノ / Konzertfach（演奏専攻）



MARTIN HUGHES

マーティン・ヒューズ

- ・オーストリア共和国 終身名誉正大学教授
- ・ウィーン国立音楽大学
ピアノ演奏科終身名誉正教授
- ・元ウィーン国立音楽大学正教授
- ・ピアノ・コンサート科主任
- ・ウィーン国立音楽大学
鍵盤楽器研究所元所長

■ ウィーンアカデミーで学んでほしいこと

楽譜に忠実に演奏するという事は、音符をなぞることではなく、音楽を理解して表現することです。それを成し得る生きた知識や感覚、様式をぜひ身につけてください。

■ 演奏するうえで大切なこと

あなたの表現を聴衆に共感してもらうことが何よりも大切で、そのためには作品の本質を正直に奏でる必要があります。音楽をただ消費するのではなく、自分だけが楽しむのではなく、宝物を分け与えるような気持ちで演奏していただきたいですね。

■ 音楽を志す学生へのエール

「音楽家」は必ずしも生活のための職業ではありませんから、人生に苦しみときもあるでしょう。それでも生涯、音楽への愛を抱き続けてください。音楽の才能を与えられた者の使命はそれを人々に述べ伝えることであり、そのためには己の能力を知り、開発し、表現しなければなりません。志を高く持ち、自分に磨きをかけていきましょう。

ピアノ



ANTOINETTE VAN ZABNER

アントワネット・ファン・ツァブナー

- ・ウィーン国立音楽大学教授

■ ウィーンアカデミーで学んでほしいこと

ウィーンで学ぶことを新たな演奏の入口と捉え、これまでとは違う視点から音楽の印象や発見を得てほしいと思います。また、ウィーン国立歌劇場やウィーン・フィルハーモニーの生きた響きを体験するとともに、この地の文化全般を皆さんの音楽解釈に役立てていただきたいですね。

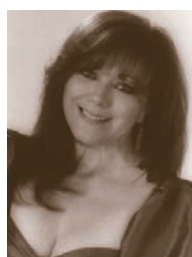
■ 演奏するうえで大切なこと

私自身が大切にしているのは「精神的な経験」です。演奏を通して聴衆の心の琴線に触れ、人々をスピリチュアルな冒険へ誘い、ともに旅人となることを望んでいます。

■ 音楽を志す学生へのエール

音楽は神からの贈り物であり、人生の慰めでもあります。そんな宝を天から与えられた以上、あなた方と分かち合い、未来へ引き継いでいきたい。そして音楽を奏でるという創造的な行為は、私たちの人間性をも築いてくれます。皆さんの生きる道が常に音楽とともにあり、豊かで満ち足りていることを願います。

声楽



PAULETTE V. HERBICH

ポレット・V・ヘルビッチ

- ・元ウィーン国立歌劇場専属歌手
- ・元ウィーン・フォルクスオーバー専属歌手

■ ウィーンアカデミーで学んでほしいこと

ウィーンのコンサートやオペラをぜひ体感してください。ウィーン・フィルハーモニーにおける響きやフレージングはあなたの良いお手本となり、ウィーン国立歌劇場で歌う歌手たちの発声法から得られるものはとても大きいでしょう。

■ 演奏するうえで大切なこと

私にとって歌は人生の伴侶であり、目的であり、真の喜びです。技術も含めて、それを全身全霊で人々に伝えることが大切なことです。

■ 音楽を志す学生へのエール

自分に正直であってください。歌うことを欲し、歌わなくてはならないとしたら、あなたは歌うために生まれてきた人です。ただし、歌は芸術であると同時に、科学を勉強するのにも似て、正しい知識、身体、魂が一体となって初めて良い歌手になることができます。そのために、まずは自身を「楽器」として作り上げる必要があります。歌を心から楽しみ、修練を積んでください。

打楽器



ANTON MITTERMAYR

アントン・ミッターマイヤー

- ・ウィーン国立歌劇場 オークストラ首席奏者
- ・ウィーン・フィルハーモニー
管弦楽団首席奏者
- ・ウィーン国立音楽大学講師

■ ウィーンアカデミーで学んでほしいこと

ウィーンの「響きのスタイル」を知り、打楽器奏法の伝統を学んでほしいですね。この地が生んだ大作曲家たちのオリジナル・サウンドであるヤギの皮を張ったティンパニを味わい音の感覚を養ってください。

■ 演奏するうえで大切なこと

ウィーンの伝統を継承すること。リズムや音程をはじめとする基本的な技術を完璧にマスターしたうえでスコアを読み解き、そこに書き込まれた音楽を忠実に演奏しましょう。

■ 音楽を志す学生へのエール

完全に正しい演奏をすることはもちろん大事ですが、それに加えて、楽譜を一人ひとりの「個性によって解釈する」ことも重要です。特に若い人たちは、自分のオリジナリティをどこに反映できるのかを見つける必要があります。プロフェッショナルな精神を持ち、常に技術の質を向上させ、しっかりと個性を示すことを目指し、完成された打楽器奏者になってください。

オーストリア事情



CHIHIRO HAYASHI

林 千尋

- ・東邦音楽大学特任教授

■ ウィーンアカデミーで学んでほしいこと

ウィーンには脈々と継承される響きの文化と伝統があります。それは多くの大作曲家や名演奏家が作り上げた世界の宝です。その中で今を生きる先生方から学ぶことは、皆さんの音楽観を確立するうえでまたとない機会となるでしょう。

■ 演奏するうえで大切なこと

ベートーヴェンの偉大さは、心にあるものを音楽として完璧に表した「表現力」にあります。ですから、大切なのは心に音楽の火が燃えていること、それを具現するコンセプトが明確であること。つまり、必要な響きを保障する確実な技術、感覚を具象化するための音楽文法、知性と経験に裏打ちされた様式学などを駆使して、自己の感動を音楽に表し、聴衆と共有することです。

■ 音楽を志す学生へのエール

音楽は「感覚の言葉」と言われます。記号化して意味を伝える言語に対し、音楽は人の感情に直接触れ、心を揺さぶるほどの感動を呼び起こします。ぜひ皆さんも精進し、素晴らしい音楽の達人となってください。ウィーンアカデミーはあなたを全力で応援します。

他の主な指導陣

歌唱指導



KLAUS BUSCH
クラウス・ブッシュ
・ウィーン・フォルクスオーパー歌唱指導部長
・ウィーン市立音楽院声楽オペラ科教授

フルート



DIETER FLURY
ディーター・フルーリー
・元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団
首席フルート奏者

クラリネット



STEFAN NEUBAUER
シュテファン・ノイパウアー
・アンサンブル・ヴィエナ・コラージュメンバー
・ウィーン国立歌劇場オーケストラ団員
・ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団団友

ホルン



VOLKER ALTMANN
フォルカー・アルトマン
・元ウィーン国立歌劇場オーケストラ団員
・元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団団員
・元ウィーン市立音楽院ホルン科主任教授

トロンボーン・ユーフォニアム



KARL JEITLER
カール・ヤイトラー
・元ウィーン国立歌劇場オーケストラ団員
・元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団団員
・元ウィーン国立音楽大学教授

ヴァイオリン



ERICH SCHAGERL
エーリッヒ・シャゲール
・元ウィーン国立歌劇場オーケストラ団員
・元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団団員

作曲



RENÉ STAAR
ルネ・スタール
・元ウィーン国立歌劇場オーケストラ団員
・元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団団員
・元ウィーン国立音楽大学講師
・グラーツ国立音楽大学客員教授

メディアデザイン



Franz-Josef Hauser
フランツ・ヨーゼフ・ハウザー
・ウィーン国立音楽大学
ベートーヴェン研究所ピアノ専任講師



Wien Training

川島 明日香

Asuka Kawashima

教職実践専攻(ヴァイオリン)
2019年入学

「東邦ウィーンアカデミーに参加して」

東邦ウィーンアカデミーは、音楽の本場であるウィーンに短期留学をして学ぶ、必修科目です。東邦が構えるアカデミーで、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の現役プレイヤーやウィーン国立音楽大学の教授など、錚々たる方々のレッスンを受けることができます。レッスンのみならず、本場の空気を吸い、本物の音楽に触れることができた期間は、私の学生生活においてひときわ素晴らしい経験として心に残っています。

期間中、エーリッヒ・シャゲール先生のレッスンを2回受けることができました。私の課題は右手の使い方でしたので、基礎練習の仕方に始まり、その基礎練習で得たものを曲で活かす方法まで示してくださいました。また、メロディーの歌い方や強弱の効果など、先生ご自身が身体全体を使って表現しながら指導してくださいました。すぐに理解して自分の演奏に取り入れることができました。レッスンが終わると、先生の教えを自分の中に取り込むために納得いくまで練習して次のレッスンに備えましたし、帰国後すぐの実技試験では、自分自身でも音色や表現の仕方が大きく変わったと感じました。シャゲール先生のレパートリーには、アイルランド民謡もあるそうで、最後のレッスンの際にデュオと一緒に演奏させていただいたことも、思い出に残っています。

レッスン以外には座学の授業もありました。特に印象的だったのは、林先生の楽曲解説の授業でした。ウィーン研修では、全員で国立歌劇場にオペラ鑑賞に行く機会があり、その演目について事前に講義を受けます。私たちはR・シュトラウスの楽劇「エレクトラ」を鑑賞しましたが、その登場人物やストーリー、音楽の特徴を頭に入れて臨んだおかげで、深くその物語を理解することができました。

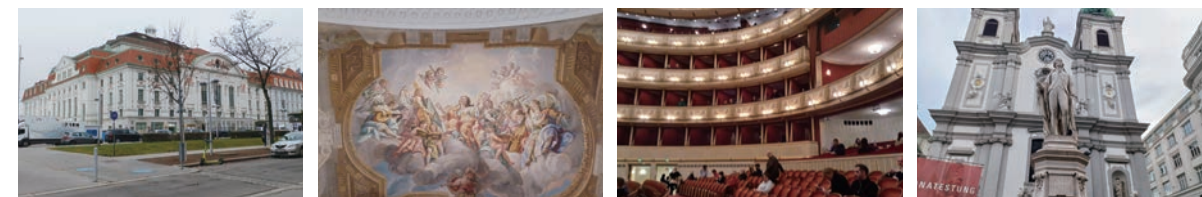
レッスンや授業がない時間のほとんどは、友人と外出していました。ウィーンの建造物はどれも魅力的です。さまざまな施設を回りながら、気づくと3時間近く歩いていた日もありました。ウィーンの街並みを探索していると、宮殿や教会、博物館、作曲家の銅像などに会うことができます。ある時、道に迷って後ろを

振り向くと、ハイドンの銅像と目が合っるとも驚いた！なんてことも。テレビでしか見たことがなかったウィーン楽友協会やシュテファン大聖堂ホーフブルグ宮殿などを実際に目の前にし、圧倒されるばかりでした。最終日に近づくにつれ、地図なしでも街歩きができるまでになりました。

もちろん、ウィーンでは毎日コンサートが開催されています。ウィーン国立歌劇場で、J・シュトラウスのオペレッタ「こうもり」を観劇したこと、ウィーン・コンチェルトハウスでブラームスの交響曲第一番、第二番(ウィーン交響楽団)の演奏を聴いたことは、特に印象に残っています。立ち見や後方席であれば比較的安価でチケットが手に入るのも、気構えることなく音楽を堪能できるのも、本場ならではの楽しみではないでしょうか。

こうした充実した研修を終え、私の中に大きな変化がありました。レッスンを受講したことやコンサートでオーケストラの演奏を聴いたことで、自分が目指す音を出すためには、ただ音程があっているだけか、姿勢よく安定して楽器を支えているかどうかということだけでは足りないという気持ち芽生えたのです。右手と左手、楽器本体と弓、そこに音程などのすべての要素が相まって、初めて曲に合った表現ができるということ

を理解しました。また、たくさんの音楽に触れつつ、美術や自然、歴史などの文化に親しむことで表現力がさらに広がっていくことは、ウィーン研修がなければ気づけなかったと思います。私は大学卒業後、小学校の教員として社会に一歩足を踏み入れます。未来を担う子どもたちに豊かな心を醸成していくことが重要視されている昨今において、音楽がもたらす力は本当に大きいと思います。子どもたちが音楽に触れる機会を多く持ち、一人ひとりの感情を豊かに育てるために、このウィーン研修で得たものを生かしていきたいです。ヨーロッパは日本とはるかに距離が離れていますが、子どもたちに私がウィーンで経験し、感動したことを伝え、それがみんなの心の栄養になってくれたら。私これから出会う子どもたちが、音楽好きで感情豊かに成長してくれたら嬉しいですね。



東邦スタンダード

TOHO Standard

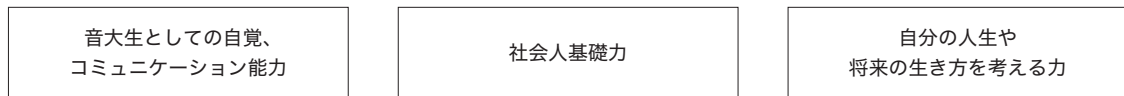
音楽を通じた

バランス感覚に優れた人格の形成

「東邦スタンダード」は、音楽家としての基礎力向上、キャリアデザインなどの学修支援を目的とした本学独自の学修プログラムです。音大生としてどのように学ぶか、そしてその学びをどのように将来につなげ、実社会で生かしていくかを考えながら、必要とされるスキルを身につけていきます。学生はこうした学修の中で、音楽の分野はもちろん、その他の領域でも活躍できる、バランス感覚に優れた人材へと成長していきます。



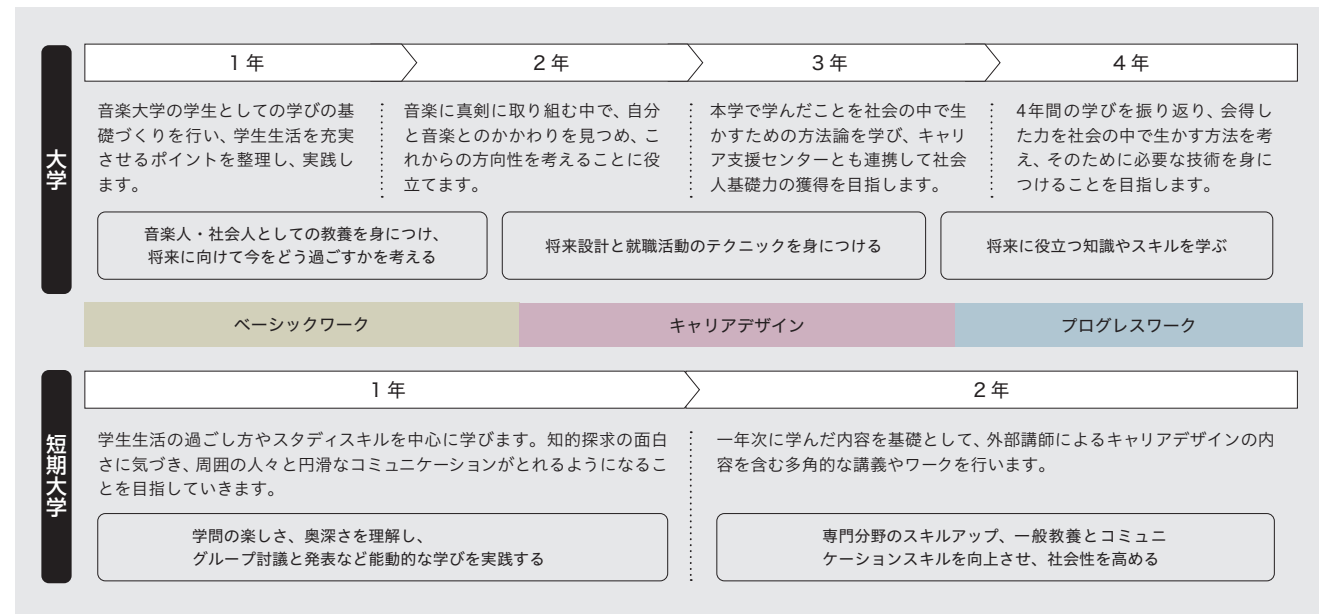
◎開発される力



◎学びのポイント

全員履修	東邦スタンダードは週1回の必修科目です。全専攻の学生が、音楽大学での学び方、音楽とのかかわり方を理解し、社会人に求められる能力をしっかりと身につけることができます。
担任制	本学の専任教員が担任・副担任として指導にあたります。教員はより良い授業を目指して、定期的に研修会を実施しながら、最新の情報を共有し、指導力を高めています。
学生の主体性を引き出す	授業では、課題に対して個人・グループでさまざまなワークを行います。その実践的な学びから、自ら考える力、コミュニケーション力、プレゼンテーションスキルといった「社会人基礎力」の獲得を目指します。
社会につながる	教員や卒業生の体験談を聞く機会なども設けています。このような学修を通して、学生一人ひとりがさまざまな課題や将来のキャリアに向けて柔軟かつ積極的に取り組む力を育てます。

◎履修の流れ



カリキュラム

伝統的な音楽教育に基づく専門性と社会で幅広く活躍するための知識と教養。その両軸を身につけるための独自のカリキュラムを設定しています。

※2023年度現行

■ 東邦音楽大学

「共通の教育課程」「希望履修選択科目群」の2つの体系から、各専攻ごとに定められた必修科目と自分の興味のある科目が選べる選択科目を、合計124単位数以上となるように組み合わせて履修していきます。

共通の教育課程			希望履修選択科目群
基礎教育科目 <ul style="list-style-type: none"> 東邦スタンダードⅠ～Ⅳ 哲学 文化芸術論 コミュニケーション論 日本国憲法と生活 国際理解と交流 社会福祉概論[老人・児童福祉を含む] ひとを読み解く科学 現代の心理学[発達心理を含む] コンピューター演習 ウィーンの社会と文化 スポーツ文化論 スポーツ演習 	共通専門教育科目 <ul style="list-style-type: none"> 和声学1～4 対位法 楽式論[作曲法・編曲法を含む] ポピュラーミュージック[作曲法・編曲法を含む] 指揮法 音楽文化論 民族音楽学 日本音楽史概説 音楽の基礎理論 音楽音響メディア論 音楽史 日本の伝統音楽概説 音楽療法概論 音楽療法的音楽論 音楽心理学 現代音楽教師論 作品研究[鍵盤] 作品研究[管弦楽] 作品研究[オペラ] 作品研究[歌曲] アジア音楽文化論 音楽と仕事 	音楽専門教育科目 <ul style="list-style-type: none"> Konzertfach(演奏専攻) …… P22 ピアノ専攻 …… P24 声楽専攻 …… P26 管弦打楽器専攻 …… P28 音楽創造専攻 …… P30 音楽療法専攻 …… P32 教職実践専攻 …… P34 パフォーマンス総合芸術文化専攻… P36 	文化教養科目 <ul style="list-style-type: none"> コンピューターミュージック演習Ⅰ・Ⅱ
(外国の言語と文化) <ul style="list-style-type: none"> ドイツ語1～4 ドイツ語圏異文化コミュニケーション1～4 英語1～4 英語圏異文化コミュニケーション1～4 イタリア語1～4 イタリア語圏異文化コミュニケーション1～4 	人間教育科目 <ul style="list-style-type: none"> ウィーンアカデミー ヒューマンコミュニケーション1～4 インターンシップⅠ・Ⅱ 地域創造①Ⅰ・Ⅱ(地域貢献として、オーケストラ等の指導) 地域創造②Ⅰ・Ⅱ(地域の学校等の授業等補助) 演奏演習 	音楽療法に関する科目 <ul style="list-style-type: none"> 障害学 臨床心理学Ⅰ・Ⅱ 人間と医療Ⅰ・Ⅱ 	教職に関する教育課程 <ul style="list-style-type: none"> 教職入門 教育学概説 教育心理学 教育方法(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む) 教育相談・進路指導 音楽科教材研究 教育行政 音楽科教育法 道徳教育の指導法 特別活動の指導法 生徒指導の方法及び教育課程の意義と編成 音楽における情報機器の活用 特別支援を必要とする生徒の理解 総合的な学習の時間の指導法 教職実践演習(中・高) 教育実習指導 教育実習
外国人留学生に関する科目 <ul style="list-style-type: none"> 日本事情Ⅰ～Ⅳ 日本語1～8 			

大学では、4年以上在学し、合計124単位数以上を修得し、卒業が認定されたものには「学士(音楽)」の学位が授与されます。
 ※一部、卒業要件に算入しない科目もあります。
 ※「Konzertfach(演奏専攻)」「教職実践専攻」における履修科目はこの限りではありません。
 ※「パフォーマンス総合芸術文化専攻」における履修科目は本学ウェブサイトをご参照いただくか、別冊リーフレットを本学までご請求ください。

■ 東邦音楽短期大学

アカデミックな音楽教育からポピュラー音楽における技法まで、幅広い視野で音楽にアプローチする多彩な科目を用意。

共通の教育課程		
基礎教育科目 <ul style="list-style-type: none"> 東邦スタンダードⅠ・Ⅱ キャリアデザイン 社会福祉概論[老人・児童福祉を含む] 法と経済[日本国憲法を含む] 現代の心理学[発達心理を含む] ひとを読み解く科学 健康と音楽 コンピューター演習 	音楽専門教育科目 <ul style="list-style-type: none"> 和声学1～4 ピアノ指導者教材研究 レッスンマネージメント シンキングポップス サウンドクリエーション THE プロフェッショナル 音楽の基礎理論 音楽史 楽器の特性と機能 音楽教養基礎講座[楽典]Ⅰ・Ⅱ 音楽教養基礎講座[ソルフェージュ]Ⅰ・Ⅱ 楽曲の楽しみ方Ⅰ・Ⅱ 作曲家の人生と作品Ⅰ・Ⅱ ピアノ指導法1～4 スタジオワークエクスペリメンションⅠ・Ⅱ 専攻実技1～4 	人間教育科目 <ul style="list-style-type: none"> ウィーンアカデミー ヒューマンコミュニケーション1・2 インターンシップ 地域創造
(外国の言語と文化) <ul style="list-style-type: none"> ドイツ語圏異文化コミュニケーション1・2 英語圏異文化コミュニケーション1・2 イタリア語圏異文化コミュニケーション1・2 	音楽教養専攻実技1～4 <ul style="list-style-type: none"> 副科実技Ⅰ・Ⅱ(ピアノ・声楽・管弦打) オーケストラⅠ・Ⅱ ウインドオーケストラⅠ・Ⅱ 伴奏法 アンサンブル(ピアノ)Ⅰ・Ⅱ アンサンブル(電子オルガン)Ⅰ・Ⅱ アンサンブル(管弦打)Ⅰ・Ⅱ 即興演奏 電子オルガン即興演奏Ⅰ・Ⅱ 合唱Ⅰ・Ⅱ 演奏演習 ソルフェージュ1～4 リトミックⅠ・Ⅱ 卒業演奏・卒業作品発表または卒業研究発表 	希望者・該当者対象科目
文化教養科目 <ul style="list-style-type: none"> P.M.E.Ⅰ・Ⅱ(Professional Music Education) 		
外国人留学生に関する科目 <ul style="list-style-type: none"> 日本事情Ⅰ・Ⅱ 日本語1-4 		

短期大学では、2年以上在学し、合計62単位数以上を修得し、卒業が認定されたものには「短期大学士(音楽)」の学位が授与されます。

演奏活動

Music Performance

日頃の成果を披露し、 聴衆と音楽の喜びを分かち合う

多彩な音楽行事と、数々の舞台、それに社会貢献活動。東邦の1年間は、学生たちを大きくステップアップさせます。定期研究発表演奏会は、川越キャンパス「東邦音楽大学グランツァール」および公共ホールで毎年開催している本学園のメインイベントのひとつ。この演奏会にはソロ・合唱・オーケストラ・ウインドオーケストラの4部門があり、学生たちはその大舞台に立つことを目標に日頃から練習に励んでいます。



◎数多くの演奏会

首都圏9音楽大学と2つの公共ホールが連携して行う「音楽大学オーケストラ・フェスティバル」や、他大学との競演による合同コンサートなど、公共ホールでの演奏会も行っています。また「卒業記念修学演奏旅行」では、音楽を通した国際交流を目的に、日本の文化や伝統を伝えることをテーマにした演奏を披露しています。

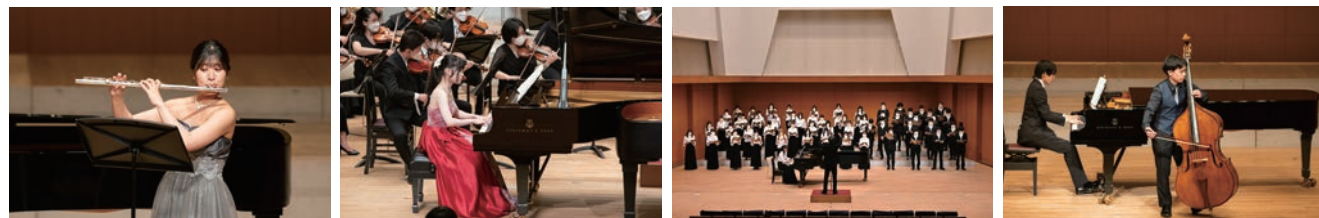


主な演奏活動	
・学内演奏会	・川越市2音大クラシック・コンサート
・定期研究発表演奏会(ソロの部)	・卒業記念修学演奏旅行
・定期研究発表演奏会(オーケストラの部)	・Konzertfach(演奏専攻)学生による演奏会
・定期研究発表演奏会(ウインドオーケストラの部)	・音楽大学オーケストラ・フェスティバル
・定期研究発表演奏会(合唱の部)	など

◎音楽を通じた地域社会との交流

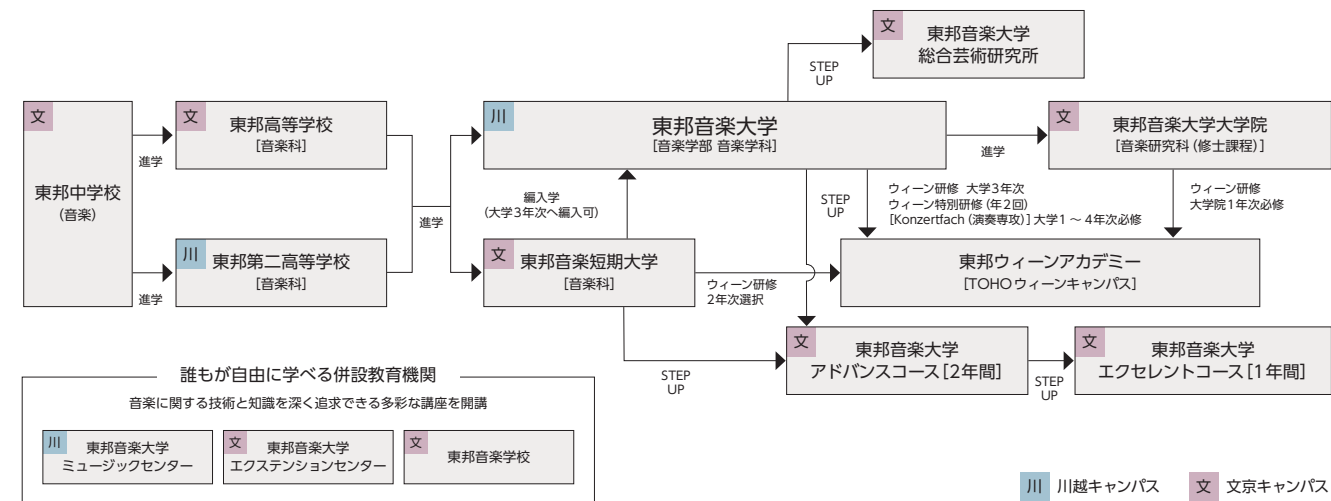
本学では、音楽文化の普及につながる社会貢献活動の一環として、公共施設や福祉施設にて行う「ボランティアコンサート」、多くの子どもたちに音楽に興味を持ってもらえるよう、地域の小中学生を招待して行う「音楽鑑賞教室」などを開催しています。また川越市南古谷地域との連携による吹奏楽団「南古谷ウインド・オーケストラ」では、本学の学生が地域創造の授業として指導に当たっています。

主な活動	
・音楽鑑賞教室	・東邦ミュージック・フェスティバル
・ボランティアコンサート	・南古谷ウインド・オーケストラ



三室戸学園の一貫教育システム

三室戸学園では、音楽を通じて豊かな感性を養うことを目的として、中学・高校から短期大学 大学・大学院進学まで含む一貫教育を実践。すべての授業で One to One の少人数制を採用し、学生一人ひとりの学ぶ意欲や思考力・表現力を育み、個々の可能性を広げる指導を行っています。



3つのポリシー

東邦音楽大学ならびに東邦音楽短期大学では、大学の建学の精神および教育理念に基づき、教育方針として、以下の3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を定めています。

東邦音楽大学	東邦音楽短期大学
<p>【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）】 本学学則に定める必要な修業年限を満たした上で、所定の教育課程を履修して、以下に示す能力を身につけ、卒業に必要な単位を修得した者に「学士(音楽)」の学位を授与します。</p> <p>◎知識・技能 ・多面的な履修を通して社会生活において必須とされる汎用的な能力 ・専攻分野を中心とした知識と技能 ・国際的な視野に立った広範な文化の理解</p> <p>◎思考力・判断力・表現力 ・現代社会に必要とされるコミュニケーション能力 ・体系的学修と実践に基づいた課題の発見、分析、解決をする能力 ・自己発信のプレゼンテーション能力</p> <p>◎意欲・関心・志向性 ・専門分野を超えて問題を探索する姿勢 ・国際感覚を身につけ、世界に踏み出そうとする意欲 ・自己や他者の役割を理解し、協働できる広い視野(自己管理能力・チームワーク) ・生涯にわたって探求しようとする姿勢(生涯学習力) ・多様な価値を認め、主体性をもって積極的に社会に貢献しようとする意欲(社会的責任・チームワーク・リーダーシップ)</p>	<p>【ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）】 本学学則に定める必要な修業年限を満たした上で、所定の教育課程を履修して、以下に示す能力を身につけ、卒業に必要な単位を修得した者に「短期大学士(音楽)」の学位を授与します。</p> <p>◎知識・技能 ・多面的な履修を通して社会生活において必須とされる汎用的な能力 ・専攻分野を中心とした知識と技能 ・系統的な知識とそれを現実に応用する技能</p> <p>◎思考力・判断力・表現力 ・現代社会に必要とされるコミュニケーション能力 ・体系的学修と実践に基づいた課題の発見、分析、解決をする能力 ・自己発信のプレゼンテーション能力</p> <p>◎意欲・関心・志向性 ・専門分野を超えて問題を探索する姿勢 ・自己や他者の役割を理解し、協働できる広い視野(自己管理能力・チームワーク) ・生涯にわたって探求しようとする姿勢(生涯学習力) ・多様な価値を認め、主体性をもって積極的に社会に貢献しようとする意欲(社会的責任・チームワーク・リーダーシップ)</p>
<p>【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）】 本学ではディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身につけるため、各専攻において以下のような方針に基づいて必要とされるカリキュラムを体系的に編成する。</p> <p>◎知識・技能 ・教養と技能およびキャリアを育む全学共通カリキュラム「東邦スタンダード」を設置する。 ・広範で多様な基礎知識の獲得と専門性を高めるために、体系的で幅広い学修が可能な科目群を設置する。 ・専門的な方法論と知識を学ぶために、順次性があるカリキュラムを編成する。 ・高い芸術性を修得するため、専攻実技は個人レッスンを実施する。</p> <p>◎思考力・判断力・表現力 ・専攻を超えて、幅広い領域の科目を履修し総合的視点を養う。 ・知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力の育成のため、アクティブ・ラーニングを取り入れた参加型の少人数授業を実施する。</p> <p>◎意欲・関心・志向性 ・国際的に適用する幅広い知識を持ち、芸術文化の発展に貢献できる人材育成。 ・身につけた知識やスキルを統合し、問題解決力と新たな価値の創造につなげていく能力や姿勢を育成する。 ・成績評価基準を明確にし、客観的な評価を行う。 ・客観的、総合的な評価のために GPA 制度を用いる。 ・実技試験においては平準化のため複数の教員による審査を行う。</p>	<p>【カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）】 本学ではディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身につけるため、各専攻において以下のような方針に基づいて必要とされるカリキュラムを体系的に編成する。</p> <p>◎知識・技能 ・教養と技能を育む全学共通カリキュラム「東邦スタンダード」を設置する。 ・広範で多様な基礎知識の獲得と専門性を高めるために、体系的で順次性のある幅広い学修が可能な科目群を設置する。 ・専門的な方法論と知識を学ぶために、専攻実技は個人レッスンを実施する。</p> <p>◎思考力・判断力・表現力 ・専攻を超えて、幅広い領域の科目を履修し総合的視点を養う。 ・知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力の育成のため、アクティブ・ラーニングを取り入れた参加型の少人数授業を実施する。</p> <p>◎意欲・関心・志向性 ・社会とつながる学修の充実を図り文化の発展や地域社会に貢献できる人材育成。 ・身につけた知識やスキルを統合し、問題解決力と、新たな価値の創造につなげていく能力や姿勢を育成する。 ・成績評価基準を明確にし、客観的な評価を行う。 ・客観的、総合的な評価のために GPA 制度を用いる。 ・実技試験においては平準化のため複数の教員による審査を行う。</p>

東邦音楽大学	東邦音楽短期大学
<p>【アドミッション・ポリシー（入学者の受入方針）】 本学では建学の精神・教育の理念に基づき、音楽芸術研鑽と豊かな人格形成を目指し学修するために、以下のような能力と学習意欲を備えた者を所定の科目によって選抜を行う。</p> <p>◎知識・技能 ・各専攻の学修に必要とされる基礎学力と技能および表現力を有する者。 ・専攻分野の音楽専門知識と技能の修得に強い意志を持つ者。</p> <p>◎思考力・判断力・表現力 ・学修に主体的に取り組み、他者とともに成長しようとする意欲を有する者。 ・幅広い視野に立ち、多様に変動する社会に柔軟に対応し、自己実現を目指す意欲を有する者。</p> <p>◎意欲・関心・志向性 ・本学での学修や経験を生かし将来社会に貢献しようとする者。 ・本学の建学の精神に基づいた人格形成を目指す者。</p>	<p>【アドミッション・ポリシー（入学者の受入方針）】 本学では建学の精神・教育の理念に基づき、音楽芸術研鑽と豊かな人格形成を目指し学修するために、以下のような能力と学習意欲を備えた者を所定の科目によって選抜を行う。</p> <p>◎知識・技能 ・各専攻の学修に必要とされる基礎学力と技能および表現力を有する者。 ・専攻分野の音楽専門知識と技能の修得に強い意志を持つ者。</p> <p>◎思考力・判断力・表現力 ・学修に主体的に取り組み、他者とともに成長しようとする意欲を有する者。 ・幅広い視野に立ち、多様に変動する社会に柔軟に対応し、自己実現を目指す意欲を有する者。</p> <p>◎意欲・関心・志向性 ・本学での学修や経験を生かし将来社会に貢献しようとする者。 ・本学の建学の精神に基づいた人格形成を目指す者。</p>



東邦音楽大学

TOHO College of Music

学園創立85年の伝統を誇りに、
先進の音楽環境で学ぶ充実感。
音楽の道を志す喜びと大舞台に立つ
感動の体験が待っています。

#東邦だからできること

One to One Quality

T
O
H
O

Konzertfach

Piano

Vocal

Wind, String and Percussion Instruments

Music Creation

Music Therapy

Teaching

Performance, the Arts and Culture Studies

取得学位

学士〔音楽〕

本学の音楽学科を卒業した者に
学士の学位が授与されます

Konzertfach

演奏専攻



2カ国レッスンで世界基準の感性と技術を養う

世界で活躍するプロフェッショナルな演奏家を目指すための専攻で、国際的な感覚を養う年2回のウィーン研修も特徴です。

対象実技はピアノ、声楽、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、打楽器で、

これらの分野における専門知識と高度な演奏技術を、東邦音楽大学と東邦ウィーンアカデミーの両教授陣から学びます。

学びの特色

視野を広げる2カ国レッスン 「ダブルティチャー制」

4年間を通して、本学での90分のレッスンと東邦ウィーンアカデミーのレッスンを実施しています。一人の学生の技術向上を国内外の2名の教授がバックアップし、世界進出も視野に入れた演奏家の育成を目指します。



国際的な感性と技術を養う 「ウィーンアカデミープロフェシオネル」

東邦ウィーンアカデミーでの特別研修を年2回(9月・2月)、4年間で計8回行います。滞在中は、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団員やウィーン国立音楽大学の教授などから世界基準の演奏技術を学びます。



グローバルな演奏活動を見据えた「ドイツ語」の修得

東邦ウィーンアカデミーの研修と将来の国際的な音楽活動に対応するため、外国人講師によるドイツ語の授業を4年間の必修科目として実施しています。



音楽専門教育科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	<ul style="list-style-type: none"> ■Konzertfach専門実技1・2 ■ウィーンアカデミープロフェシオネル1・2 ■声作り(シュティムビルドゥング)Ⅰ ■朗読法(Konzertfach・イタリア語)Ⅰ ■オーケストラⅠ ■ウインドオーケストラⅠ ■合唱Ⅰ ■ソルフェージュ1・2 	<ul style="list-style-type: none"> ■Konzertfach専門実技3・4 ■ウィーンアカデミープロフェシオネル3・4 ■声作り(シュティムビルドゥング)Ⅱ ■朗読法(Konzertfach・ドイツ語)Ⅱ ■オーケストラⅡ ■ウインドオーケストラⅡ ■合唱Ⅱ ■ソルフェージュ3・4 	<ul style="list-style-type: none"> ■Konzertfach専門実技5・6 ■ウィーンアカデミープロフェシオネル5・6 ■オーケストラⅢ ■ウインドオーケストラⅢ ■学内演奏 	<ul style="list-style-type: none"> ■Konzertfach専門実技7・8 ■ウィーンアカデミープロフェシオネル7・8 ■オーケストラⅣ ■ウインドオーケストラⅣ ■卒業演奏
主な選択科目	<ul style="list-style-type: none"> ■ピアノ指導者を目指す人のための音楽教育学入門 ■副科ピアノⅠ ■室内楽Ⅰ ■教材伴奏法Ⅰ★ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ピアノアンサンブル ■ピアノ伴奏法Ⅰ ■副科ピアノⅡ ■副科声楽Ⅰ ■室内楽Ⅱ ■教材伴奏法Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ■オペラ研究Ⅰ ■チェンバロ研究Ⅰ ■ピアノ伴奏法Ⅱ ■副科声楽Ⅱ ■室内楽Ⅲ ■合唱Ⅲ(歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む)★ ■合奏(和楽器を含む)★ ■キーボードハーモニー 	<ul style="list-style-type: none"> ■オペラ研究Ⅱ ■チェンバロ研究Ⅱ ■室内楽Ⅳ ■合唱Ⅳ

※専門実技によって履修可能な科目が異なります。※選択科目はこの限りではありません。

※選択科目に教職必修科目が含まれています(★印)。※共通の教育課題、希望履修選択科目については、P.17をご覧ください。

Message



藤井 一興
・ピアノ 特任教授

音楽の「本質」を感じ取れる 豊かな精神の育みは、一生の糧となる

Konzertfach(演奏専攻)では年2回、4年間で計8回も音楽の都ウィーンにある「TOHO ウィーンキャンパス」でレッスンを受けることができます。その地の空気に直に触れながら美しい様式や美学を勉強する経験は、音楽の本質を感じ取る豊かな精神を育み、それはまた一生の糧にもなるでしょう。さらに、そうした本場での学びに加え、大学構内にある本格的な音楽ホール「グランツァール」で行う、年2回、計8回の公開演奏も有意義です。充実したカリキュラムの中に、上達を目指すうえで非常に価値あるチャンスがあふれています。

Message



小川 尚也
・Konzertfach(演奏専攻)
・2022年入学
・東邦音楽大学附属東邦高等学校

演奏家を目指して 少人数で音楽を深く研究できる環境

Konzertfach(演奏専攻)には、将来演奏家として活躍することを見据え、少人数で深く音楽を研究できる環境があります。またドイツ語等、世界進出を視野に入れたきめ細やかな講義も特長です。年2回のウィーン研修ではウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の奏者等のレッスンを受講できますし、グランツァールでの演奏会ではプログラミングや舞台マナーを学べます。私自身、演奏家を目指す中で、コンクールやオーディションに挑戦し、イタリア音楽コンクールでは最高位を受賞することができました。東邦は、将来に向かって努力する私を後押ししてくれる最高の大学です。

ピアノ専攻

Piano



人々の感動を引き出す演奏家・指導者を目指す

独奏、伴奏、アンサンブルを網羅したピアノ専門教育により、幅広く活躍し社会に認められる演奏家・指導者・教育者を養成します。レッスンでは一人ひとりの個性や進路目標を尊重し、潜在能力を引き出すきめ細かい指導を実施。知性と感性のバランスがとれた、心に響く演奏を目指します。

学びの特色

音楽的調和と協調性を学ぶ 「ピアノアンサンブル」

アンサンブルを通して室内楽の基礎を学び、共演者と呼吸を合わせ、音を聴き合い、音楽をつくり上げる喜びを体感します。また、幅広い時代の作品を題材に様々な角度から学びます。



優れた伴奏者を目指す 「ピアノ伴奏法」

声楽や器楽の伴奏では、ソロ奏者をサポートする意識を持たなくてはなりません。質の高い音楽づくりができる伴奏者を目指し、伴奏の果たす役割やその重要性を理解しながら、実践的な演奏法を学びます。



古典音楽の理解を深める 「チェンバロ研究」

音楽史において重要なバロック時代を知る手がかりとして、古典的撥弦楽器＝チェンバロを研究します。構造や様式、時代背景、ピアノとの鍵盤語法の違いなどを学ぶことで、ピアノそのものの理解も深めます。



音楽専門教育科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	<ul style="list-style-type: none"> ■ピアノ1・2 ■合唱Ⅰ ■ソルフェージュ1・2 	<ul style="list-style-type: none"> ■ピアノ3・4 ■合唱Ⅱ ■ソルフェージュ3・4 	<ul style="list-style-type: none"> ■ピアノ5・6 ■学内演奏 	<ul style="list-style-type: none"> ■ピアノ7・8 ■卒業演奏
主な選択科目	<ul style="list-style-type: none"> ■副科管弦打楽器Ⅰ ■ピアノ指導者を目指す人のための音楽教育学入門 ■教材伴奏法Ⅰ★ 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科声楽Ⅰ ■副科管弦打楽器Ⅱ ■ピアノアンサンブル ■教材伴奏法Ⅱ ■ピアノ伴奏法Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科声楽Ⅱ ■合唱Ⅲ(歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む)★ ■副科管弦打楽器Ⅲ ■合奏(和楽器を含む)★ ■チェンバロ研究Ⅰ ■ピアノ伴奏法Ⅱ ■キーボードハーモニー 	<ul style="list-style-type: none"> ■合唱Ⅳ ■副科管弦打楽器Ⅳ ■チェンバロ研究Ⅱ

※選択科目に教職必修科目が含まれています(★印)

※選択科目はこの限りではありません。

※共通の教育課程、希望履修選択科目については、P.17をご覧ください。

Message



大場 文恵
・ピアノ専攻主任 特任教授

人の心を動かすのは「人」、そして「芸術」です。

ピアノの習得に必要なのは、知力・体力・気力と、粘り強く取り組む姿勢です。それを支えるために、一人ひとりが主体的に考え、答えが出せるような指導を心がけています。1・2年次でバロック期から近現代期まで網羅し、3年次からは自ら選んだ楽曲を深めていきます。その体系的な学びによって演奏の土台となるテクニックを磨き、知性と感性のバランスのとれた演奏家を目指しましょう。演奏家や指導者は、人々の感動を引き出すことで社会に寄与します。人の心を動かすのは「人」、そして「芸術」です。

Message



改藤 啓乃
・ピアノ専攻
・2021年入学
・福井県立金津高等学校

多くの刺激を受け、音楽に向き合う時間が増えました

少人数制の大学であるからこそ、先生方のサポートも手厚く、先輩や後輩、他の専攻の学生との関わりを多く持つことができます。ピアノ専攻では通常のレッスンだけでなく、連弾や二台ピアノを使った授業でピアノ同士のアンサンブルの楽しさを知ることができました。また、初見演奏や移調がメインのソルフェージュでは、読譜力や伴奏時における対応力が向上していると感じます。大学にいと自然と誰かが練習している音が耳に入り、同じことに打ち込んでいる友人がそばにいる。そんな良い刺激を受けることが、自身の成長につながっています。

声楽専攻

Vocal



対話を重視した学びで、歌の未来をより豊かなものに

「身体」を楽器として音を奏でる声楽は、音楽の中で唯一「言葉」を伴う芸術です。その道を追求するには正しい技術を修得し、旋律や響きに対する美的感覚と言葉や詩情への洞察力を磨くことが大切。

声楽の専門技術・表現力を養う指導により、演奏家・指導者・教育者として社会に貢献できる価値観と豊かな人間性を育みます。

学びの特色

重唱の基本から実演まで 「オペラ研究」

オペラ作品を題材に役に割り振り、重唱の勉強をします。歌うことを意識せずに無理のない演技ができるよう稽古を重ねることで、音楽力の向上を促進。音楽ホール「東邦音楽大学グランツァール」でその成果を発表します。



説得力のある歌唱を磨く 「朗読法」

声楽を学ぶ中で必要となるドイツ語、イタリア語の作品を半期ずつ取り上げます。声楽は言葉を伴う唯一の音楽芸術。美しい発音を身につけ、詩の意味と内容を正しく把握し、説得力を持って表現する能力を養います。



世界の一流歌手が直接指導 「声楽公開講座」

一流演奏家を講師に迎える「公開講座」「公開レッスン」を随時行っています。本学を卒業後、テノール歌手として世界で活躍する石倚潔(シ・イジェ)特任教授のレッスンでは、学生たちの潜在歌唱力を引き出します。



音楽専門教育科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	<ul style="list-style-type: none"> ■声楽1・2 ■合唱Ⅰ ■ソルフェージュ1・2 	<ul style="list-style-type: none"> ■声楽3・4 ■合唱Ⅱ ■朗読法(ドイツ語・イタリア語) ■ソルフェージュ3・4 	<ul style="list-style-type: none"> ■声楽5・6 ■学内演奏 	<ul style="list-style-type: none"> ■声楽7・8 ■卒業演奏
主な選択科目	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅠ ■副科管弦打楽器Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅡ ■副科管弦打楽器Ⅱ ■教材伴奏法Ⅰ★ 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅢ ■合唱Ⅲ(歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む)★ ■副科管弦打楽器Ⅲ ■合奏(和楽器を含む)★ ■オペラ研究Ⅰ ■教材伴奏法Ⅱ ■ピアノ指導者をめざす人のための音楽教育学入門 ■キーボードハーモニー 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅣ ■合唱Ⅳ ■副科管弦打楽器Ⅳ ■オペラ研究Ⅱ

※選択科目に教職必修科目が含まれています(★印)。

※選択科目はこの限りではありません。

※共通の教育課程、希望履修選択科目については、P.17をご覧ください。

Message



山崎 明美
・声楽専攻主任 特任教授

声楽を通じて情操を育み、国際的な視野も身につけてください。

個性を尊重しながら能力を最大限に引き出すことを目指し、実技だけでなく、語学・文学作品の背景研究にも力をそいでいます。特にドイツ語やイタリア語の美しい発音と表現法を身につけることは声楽に不可欠であり、またウィーン研修での濃密なレッスンやオペラ鑑賞の機会は、学生たちの芸術性を磨きます。そのような研鑽を積み重ね、演出家の指導も受けて臨むグランツァールの舞台でのオペラ演奏もとても魅力的です。卒業後の進路は、歌手、指導者、教育者など多様ですが、声楽を通じて情操を育み、国際的な視野も身につけてほしいと願っています。

Message



岡本 萌花
・声楽専攻
・2020年入学
・長野県小諸高等学校

少人数だからこそ、個性を大事にしてくれる

声楽専攻生が履修できるオペラ研究では、オペラの演目の一部を実際に自分で演じることができ、オペラをより深く知るきっかけになりました。朗読法では、前期にドイツ語、後期はイタリア語を学びます。初めは発音するのが恥ずかしい気持ちもありましたが、友達との発音から学ぶことも多くあり、楽しくなりました。3年次にはウィーン研修もあり、本物に触れる機会が多いのが魅力です。少人数であるからこそ一人ひとりにあった指導をしてくださるし、担当外の先生からアドバイスを受ける機会もあり、より深く、より専門的に音楽を学ぶことができていると思います。

管弦打楽器専攻

Wind, String and Percussion Instruments



合奏教育を重んじ、細やかな指導で演奏力と人間力を育む

個々の力を着実に伸ばす細やかな実技レッスンはもちろん、オーケストラとウインドオーケストラの2つを軸とした合奏科目に週9時間を充ちます。すべての原点である古典派作品の演奏法から丁寧に学ぶカリキュラムと、充実した指導陣による分奏や合奏により、確かな理解に基づく表現力・演奏能力を身につけます。誠実に音楽と向き合う4年間は、将来のキャリアを支える大きな力となるでしょう。

学びの特色

能動的な音楽表現を学ぶ

「オーケストラ・ウインドオーケストラのための合奏ベーシック」

徹底した基礎トレーニングを通してアンサンブル演奏のスキルを身につけ、技術向上を図ります。浅野高瑛(特任教授)をはじめとする講師による講義と実践を織り交ぜた授業スタイルにより、一人ひとりに「能動力あふれる演奏の喜び」を感じ取らせ、自信を実らせませす。

調和する素晴らしさを共有

「オーケストラ」「ウインドオーケストラ」

合奏体の一員として、各々の能力を最大限に発揮しながらアンサンブルの喜びを共有し、作品の奥深い理解に基づいた質の高い演奏を目指します。「オーケストラ」は大友直人(特任教授)、「ウインドオーケストラ」は小林恵子(特任准教授)を中心とした指導陣のもとでリハーサルを重ね、その成果を多くの演奏会で披露します。



音楽専門教育科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	<ul style="list-style-type: none"> ■管弦打楽器1・2 ■オーケストラⅠ ■ウインドオーケストラⅠ ■オーケストラ・ウインドオーケストラのための合奏ベーシックⅠ ■ソルフェージュ1・2 ■合唱Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ■管弦打楽器3・4 ■合唱Ⅱ ■オーケストラⅡ ■ウインドオーケストラⅡ ■ソルフェージュ3・4 	<ul style="list-style-type: none"> ■管弦打楽器5・6 ■オーケストラⅢ ■ウインドオーケストラⅢ ■学内演奏 	<ul style="list-style-type: none"> ■管弦打楽器7・8 ■オーケストラⅣ ■ウインドオーケストラⅣ ■卒業演奏
主な選択科目	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅠ ■室内楽Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅡ ■副科声楽Ⅰ ■室内楽Ⅱ ■オーケストラ・ウインドオーケストラのための合奏ベーシックⅡ ■教材伴奏法Ⅰ★ 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅢ ■副科声楽Ⅱ ■合唱Ⅲ(歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む)★ ■室内楽Ⅲ ■合奏(和楽器を含む)★ ■オーケストラ・ウインドオーケストラのための合奏ベーシックⅢ ■教材伴奏法Ⅱ ■キーボードハーモニー 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅣ ■合唱Ⅳ ■室内楽Ⅳ ■オーケストラ・ウインドオーケストラのための合奏ベーシックⅣ

※選択科目に教職必修科目が含まれています(★印)。

※共通の教育課程、希望履修選択科目についてはP.17をご覧ください。

Message



宮野 陽子

・管弦打楽器専攻主任 教授
・ヴァイオリン

あなたの学びは、自分のためにも、社会のためにも大切です

アンサンブルの授業では、実践的なコミュニケーション能力を養い、人を思いやることのできる人間性を育みます。それは自分が他者にどのような影響を与えられるかを知るきっかけになり、そこから発展して社会にどのように貢献できるかを考える機会にもなり、将来の希望につながります。その夢に向かって努力を怠らなければ、普通の音楽に携わる一人として、必ずや活躍の場に出会えるでしょう。あなたの学びは、自分のためにも、人々のためにも、社会のためにも大切なのだという自覚と自信を持って歩んでください。

Message



蓮見 千里

・管弦打楽器専攻(フルート)
・2021年入学
・伊奈学園総合高等学校

たくさん学びレパートリーを増やしていきたいです

音楽を学ぶ上で練習場所の確保は欠かせません。東邦音楽大学には充実した練習環境が整っており、思う存分練習に打ち込むことができます。先生が一人ひとりに合わせた丁寧なレッスンをしてくださるのも魅力です。ウインドオーケストラやオーケストラなどに参加できる機会が多くあり、レパートリーとして、知っておかなくてはならない曲をたくさん演奏して学ぶことができます。副科でピアノや声楽を学び、教職課程も履修することで、幅広く将来について考えられます。中学生から意志を持って続けてきたフルートに携われる仕事をするため、さらに学びを深めていきます。

音楽創造専攻

Music Creation



業界標準の音楽制作を学ぶ

作曲における「王道の技術」を知ることは非常に重要です。「知らずにできない」のではなく「知ったうえで選択できる」知識・見識・技術が、創作活動の幅を大きく広げ、イメージの現実化をより容易にするのです。本専攻では、国内の音楽業界で用いられる最新の技術や情報を学べるだけでなく、海外でも通用する世界標準の知識を得ることができます。

学びの特色

アカデミックな 作曲技法を学ぶ

作曲とは、常に新しいものを創造する作業である一方、先人たちが築き上げてきた歴史のうえに成り立っています。本学では、楽曲分析や和声学、対位法といった書法を学び、先人の知恵を自らの技術として体得できます。



DAWを用いた 最新鋭の音源制作

レコーディングやDAWの実践演習を通して、最新鋭の音源制作を習得します。クラシックから映像音楽やポップスまで、あらゆるジャンルに精通する講師陣が「現在の音楽」に必要なすべてを伝授します。



数々の演奏会で 「書いた音」を実演

頭の中にある音楽を実際に音にして確認することは、作曲・音響デザインを学ぶうえでとても重要です。本専攻では数ある演奏会で自分の作品を演奏する、もしくは演奏してもらう「思念の現実化」を積極的に行います。



音楽専門教育科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	<ul style="list-style-type: none"> ■作曲1・2 ■合唱Ⅰ ■ソルフェージュ1・2 	<ul style="list-style-type: none"> ■作曲3・4 ■合唱Ⅱ ■ソルフェージュ3・4 	<ul style="list-style-type: none"> ■作曲5・6 ■学内作品発表 	<ul style="list-style-type: none"> ■作曲7・8 ■卒業作品発表
主な選択科目	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅠ ■副科管弦打楽器Ⅰ ■ソフトウェア演習Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅡ ■副科声楽Ⅰ ■副科管弦打楽器Ⅱ ■ソフトウェア演習Ⅱ ■教材伴奏法Ⅰ★ 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅢ ■副科声楽Ⅱ ■合唱Ⅲ(歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む)★ ■副科管弦打楽器Ⅲ ■合奏(和楽器を含む)★ ■ソフトウェア演習Ⅲ ■教材伴奏法Ⅱ ■キーボードハーモニー 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅣ ■合唱Ⅳ ■副科管弦打楽器Ⅳ

●総合作曲演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ *いずれか2単位選択必修

※選択科目に教職必修科目が含まれています(★印)。
 ※選択科目はこの限りではありません。
 ※共通の教育課程、希望履修選択科目については、P.17をご覧ください。

Message



荻久保 和明
・音楽創造専攻 特任教授

作曲・音源制作は、 現代における貴重な職人芸

作曲・音源制作という孤独な作業は現代における貴重な職人芸であり、演奏にかかわるコミュニケーション能力は社会生活において有用です。とりわけ作曲に関しては「何を書くか書きたいか」が重要ですから、自分の音楽に対する意志を強く持てる学生を育てたいと思っています。ハーモニー、コード進行、対位法、オーケストレーションアレンジ、パソコンによる音源制作まで、そのために必要な知識・技術はすべて教えます。大学とは自ら学ぶ者に大きく門を開いている場所です。求めよ、さらば与えられん!

Message



殷 玮聰
・音楽創造専攻
・2022年入学
・留学生

本当の意味で 音楽に触れさせてくれる場所

音楽創造専攻の「多様化した現代、これからの作曲には幅広い、真に心に響く良い音楽を創ることが求められる」という理念に強く共感しています。「美しいメロディ、歌唱性の強い曲」だけが合唱曲であるように思っていたのですが、民族音楽学、音楽文化論など幅広い分野を知る中で、音楽に対する理解も深まり、発想もより豊かになりました。視野が広がり、審美眼も向上していると感じています。卒業後は音楽関係の仕事を目指しており、劇団やメディア会社で多くの実践経験を積みたいと思っていますが、同時に作曲の勉強も続けて、自分の技法を高めていきたいです。

音楽療法専攻

Music Therapy

Konzertfach
演奏専攻
ピアノ専攻
声楽専攻
管打楽器専攻
音楽創造専攻
音楽療法専攻
教職実践専攻
行方不詳

学びの特色

現場で磨く高い専門性「音楽療法現場実習」

3～4年次に計50回程度の現場実習を実施。病院・施設など複数の現場に定期的に行くことができます。そして、ミーティングや教員からの指導を通して、現場に必要な技術と応用力を身につけます。

本学は「日本音楽療法学会認定 音楽療法士資格試験受験認定校」です。本学の音楽療法専攻カリキュラムを修了し、同学会所定の試験に合格することで、「学会認定音楽療法士」の資格を取得できます。

現場実習の流れ



①事前ミーティング

学生が主体となって実習の準備をします。選曲、対象者とのかわり方、活動の進め方を話し合い、進行役、ピアノ伴奏、アシスタントなどの役割分担を決めます。そのうえで、現場を想定したロールプレイ(役割演技)を行い、改善点の洗い出しをします。



②直前ミーティング

教員も同席して予行演習を行います。ロールプレイによりプログラムの進行を確認し、特に学生の技術面について教員が細かく指導します。こうしたプロセスを通じて、実習に向けてチームワークをいっそう高めます。



③現場実習

現場では、事前に決めた役割にしたがって、歌や合奏、簡単なダンスなどを対象者全員と行います。学生は、それぞれの対象者に合わせて綿密に立てられた目標が達成できているかどうか確認しながら、活動に参加します。



④事後ミーティング

実習終了後は、対象者の様子を振り返り、適切な対応ができたかどうかを実習先のスタッフも交えて検討します。さらに記録した映像を見ながら細かな対応を話し合い、教員が技術指導を行うことで、実践力を養います。

音楽専門教育科目

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
必修科目	<ul style="list-style-type: none"> ■音楽療法1・2 ■合唱Ⅰ ■ソルフェージュ1・2 	<ul style="list-style-type: none"> ■音楽療法3・4 ■合唱Ⅱ ■音楽療法の理論と技法 	<ul style="list-style-type: none"> ■音楽療法5・6[実習を含む] ■音楽療法各論[児童] ■音楽療法各論[精神科] ■音楽療法各論[高齢者] ■学内実習発表 	<ul style="list-style-type: none"> ■音楽療法7・8[実習を含む] ■卒業研究発表
主な選択科目	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅠ ■副科管弦打楽器Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅡ ■副科声楽Ⅰ ■副科管弦打楽器Ⅱ ■教材伴奏法Ⅰ★ ■ソルフェージュ3・4 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅢ ■副科声楽Ⅱ ■合唱Ⅲ(歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む)★ ■合奏(和楽器を含む)★ ■ソフトウェア演習Ⅲ ■教材伴奏法Ⅱ ■キーボードハーモニー 	<ul style="list-style-type: none"> ■副科ピアノⅣ ■合唱Ⅳ

※選択科目に教職必修科目が含まれています(★印)。※選択科目はこの限りではありません。※共通の教育課程、希望履修選択科目については、P.17をご覧ください。

音楽療法士資格取得のための最適な環境と実践学習

音楽の効用を、心身の健康、認知症予防、リハビリテーションなどに役立てる音楽療法の分野で即戦力となる人材を育てます。カリキュラムは、対人援助における必須技術と理論を習得する授業から、関連領域である心理学、医学、障害学、社会福祉まで幅広く用意。音楽療法士の資格を取得するために必要なすべての授業・実習を、最適な環境で提供しています。

Message



木下 容子

・音楽療法専攻
チームリーダー 准教授

音楽療法の深く豊かな体験は、皆さんの人生をも潤すでしょう。

音楽療法とは、対象となる方々がより良く生きていくために「音楽を通して」かわる分野です。そして音楽療法士には、対象者を理解するうえで必要な心理学や障害学など、幅広い領域の知識が求められます。と同時に、芸術性も要する対人援助職として、優れたコミュニケーションスキルや、高度な音楽技法を柔軟に使いこなす力も備えていなければなりません。本専攻のカリキュラムでは、それらすべてを総合的に学ぶことができます。音楽療法を通じた対象者との深く豊かな交流は、皆さんの人生をもみずみずしく潤すでしょう。

Message



川田 美通

・音楽療法専攻
・2021年入学
・宇都宮短期大学附属高等学校

「音楽で誰かを幸せに」の心を理解し合える仲間と切磋琢磨する

音楽療法士にはいくつか資格の種類がありますが、「認定音楽療法士」資格取得の認定校である東邦に入学しました。この専攻は、個人より仲間と協力して活動する実習や授業が多く、お互いに苦手な部分を補い合い、良い刺激になります。「人間と医療」という授業では病气や体のことを学びますし、ボランティアとして高齢者施設に行ってデイケアの音楽療法に参加したり、漠然と「音楽で誰かを幸せにしたい」と思っていた私に、具体的な将来への道筋を示してくれます。卒業後は音楽療法士として少しでも多くの幸せを感じていただけるような活動をしたいと思っています。

教職実践専攻

Teaching



実践力と理論を兼ね備えたスペシャリストの育成

音楽教員や地域社会の指導者を目指し、それに必要な基礎的演奏技術と幅広い知識・教養、豊かな人間性を育みます。ピアノ、声楽、管弦打楽器のいずれかを音楽実技とし、インターンシップやグループワーク、模擬授業など、実践を重んじた多彩なスタイルの学びを実施。現場で生きる専門性、指導力、プレゼンテーション力を養います。

学びの特色

教育活動全般を实地研修 「教職インターンシップ」

教育現場において、音楽の授業だけでなく、先生方や児童生徒とのかかわり、学校行事など、教育活動全般の体験研修を行います。



教員としての資質を高める 「教育総合科目」と「教職特講」

音楽科教員に必要な専門力を身につけ、教員採用試験で求められる教職教養や法規、面接や論文対策など、資質能力を総合的に高めます。



小学校・幼稚園の 教員免許も取得可能

中学校・高等学校教諭一種免許状(音楽)に加え、東京未来大学通信教育過程との提携により、小学校・幼稚園教諭普通免許状取得も目指せます。※要課程履修費



音楽専門教育科目

	1年次	2年次	3年次	4年次
必修科目	<ul style="list-style-type: none"> ■教職特講(教職実践専攻)Ⅰ ■合唱Ⅰ ■音楽実技1・2 ■ソルフェージュ1・2 	<ul style="list-style-type: none"> ■教職特講(教職実践専攻)Ⅱ ■音楽科教育法 ■教材伴奏法Ⅰ ■合唱Ⅱ ■音楽実技3・4 ■朗読法(ドイツ語・イタリア語) ■ソルフェージュ3・4 	<ul style="list-style-type: none"> ■教職特講(教職実践専攻)Ⅲ ■音楽科教材研究 ■合唱Ⅲ(歌唱指導法・日本の伝統的な歌唱を含む) ■合奏(和楽器を含む) ■音楽実技5・6 ■学内研究発表 	<ul style="list-style-type: none"> ■教職特講(教職実践専攻)Ⅳ ■音楽実技7・8 ■卒業研究発表
主な選択科目	<ul style="list-style-type: none"> ■室内楽Ⅰ ■オーケストラ ■ウインドオーケストラⅠ ■副科ピアノⅠ ■副科管弦打楽器Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ■楽器の特性と機能(教職) ■ピアノアンサンブル ■ピアノ伴奏法Ⅰ ■室内楽Ⅱ ■オーケストラⅡ ■ウインドオーケストラⅡ ■副科ピアノⅡ ■副科管弦打楽器Ⅱ ■副科声楽Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> ■教材伴奏法Ⅱ ■オペラ研究Ⅰ ■チェンバロ研究Ⅰ ■ピアノ伴奏法Ⅱ ■室内楽Ⅲ ■オーケストラⅢ ■ウインドオーケストラⅢ ■副科ピアノⅢ ■副科声楽Ⅱ ■キーボードハーモニー 	<ul style="list-style-type: none"> ■合唱Ⅳ ■オペラ研究Ⅱ ■チェンバロ研究Ⅱ ■室内楽Ⅳ ■オーケストラⅣ ■ウインドオーケストラⅣ ■副科ピアノⅣ

※音楽実技によって履修可能な科目が異なります。※共通の教育課題、希望履修選択科目については、P.17をご覧ください。

Message



粕谷 宏美
・教職実践専攻主任 特任教授

目指すは、実践力と理論を兼ね備えたスペシャリストの育成。

本専攻の目的は、実践力と理論を兼ね備えたスペシャリストとしての音楽教員の育成です。教師の仕事や立場を深く理解するために、教育現場に足を踏み入れて行う「教職インターンシップ」を通じた「教師力」の養成に力を入れています。人間関係力やコミュニケーション力、表現力など、教職課程での学びのすべてが将来の社会生活にも役立つことでしょう。

Message



大町 夏音
・教職実践専攻(サクソフォン)
・2021年入学
・静岡県立沼津西高等学校

音楽的な成長と、目標を叶えるための準備を両立できる

教育総合科目や教職特講など、1年次から教員採用試験に関する対策や実践的な学びができるのが、教職実践専攻の特長です。面接や論文、弾き歌いの練習、それぞれの県や市の過去問題への取り組みなど、幅広く勉強できます。専門楽器のレッスンやウインドオーケストラ、室内楽等は他の専攻と同じように履修できるため、音楽的にも成長できます。練習室等の設備も充実していて、友人たちと高め合いながら音楽や勉強に取り組める環境です。先生方は温かく素敵で、将来自分もこのような先生になりたいと憧れを持って勉強できるのも、この専攻の魅力だと思います。

パフォーマンス総合芸術文化専攻

Performance, the Arts and Culture Studies



芸術文化とエンタメを繋ぐ、「現場主義」の学び

アカデミックな音楽教育を土台に、音楽プロデューサー／ディレクター、テレビ・ラジオなどのメディア、演劇・舞台、イベント制作といった多種多様な「業界」「業種」にかかわる講義・科目を通じて、音楽を軸とするエンターテインメント全般に対応する人材を育成します。さらに未来のグローバルな活動も視野に入れ、国際的な芸術文化の理解を促進します。

詳しくはコチラ



学びの特色

第一線で活躍する講師に学ぶ 「THE業界人(仕事の流儀)」

音楽プロデューサー、声優、芸能マネージャー、イベンター、アニメ／ゲーム音楽作家など、各界の第一線で活躍する講師陣によるリレー講座。自分の将来像をイメージするためのヒントが満載です。

エンタメ業界の実態を知る 「エンタメプロデュース」

音楽プロデュースのノウハウ、アニメやゲーム音楽等、商業音楽系作曲のアイデア、芝居の基礎～演出術・プロデュース、ダンス(民族舞踊からHipHopまで)の歴史や実践の授業等、様々なジャンルのエンターテインメントの「在り方・プロデュースとは何か」を学びます。

演技力とコミュニケーション力を身につける 「演技とパフォーマンス」

俳優は常に作品ごとに共演者が変わり、作品毎にシアターゲーム等を用いコミュニケーションをとりチームワークづくりを行います。芝居(エチュード等)を学ぶことにより、自然に取れるコミュニケーション力を身につけます。



森田順平講師の授業にて行われた朗読劇公演の様子です



多彩な講師陣

Message



城之内 ミサ 専攻主任・特任教授
・音楽家
・ユネスコ平和芸術家

東邦音楽短期大学在学中に作曲家シンガーソングライターとしてデビュー。『3年B組金八先生』をはじめ数々の劇伴を手がけ、映像音楽作曲家として活躍。海外でも作品がヒットする世界的アーティストでもある。

未来のエンタメを担う人材の育成。
「舞台に立つ人」「プロデュースする人」双方の学び

今やエンタメも立派な『文化』であることは皆様にご存知と思います。本専攻では、アカデミックな分野とエンタメ全般を同時に学び、商業音楽・商業舞台をはじめとするエンタメ業界全般で活躍できる人材を育成することを目的としています。音楽大学でありながら、従来のピアノ・声楽・器楽・作曲などの実技を主とした科目を必修とせず、芸術文化・エンタメ業界第一線で活躍する講師陣の講義・科目を多数そろえているため、「舞台に立つ人」「プロデュースする人」双方の学びの場となっています。

想定される進路

●音楽クリエイター ●音楽プロデューサー・ディレクター ●アニメプロデューサー ●イベントプロデューサー・ディレクター ●芸能マネージャー ●音楽系ライター ●舞台芸術家(演出・俳優・舞台監督・舞台美術) ●ステージマネージャー ●声優・俳優・アナウンサー ●脚本家 ●音楽評論家 ●アソシエイト ●作曲家 ●作詞家 ●アート・マネジメント関係専門職 ●広告代理店 ●プロモーション会社 ●テレビ制作会社 ●企業(放送・映像・芸能・広告) ●旅行代理店 ●国際文化交流団体等 ●海外芸術系大学・大学院留学 ●国内大学院進学 他



松浦 晃一郎 客員教授
・元駐仏大使
・第8代ユネスコ事務局長

東京大学法学部を卒業後、外務省に入省し、経済協力局長、北米局長、外務審議官などを歴任。世界遺産のエキスパートでもあり、世界各国から70にのぼる勲章、多くの名誉市民権、50以上の大学の名誉博士号を授与されている。



ひかる 一平 講師
・役者
・芸能プロダクション代表

元ジャニーズであり、一世を風靡するアイドルでもあった。現在も俳優として活躍する傍ら、子役や若手俳優の指導をしている。演技とコミュニケーションの先生。



福原 慶匡 講師
・アニメプロデューサー
・音楽プロデューサー
・実業家

早稲田大学教育学部卒業。アニメプロデューサーとして、『みらいディーパー』『てさくれ!部活もの』シリーズ、『けものフレンズ』などの作品を手がける。

Message



都筑 心音

・パフォーマンス総合芸術文化専攻
・2021年入学
・関東第一高等学校

私が進む
「音楽の道」を見つける

パフォーマンス総合芸術文化専攻は、アーティストとして「自分のなりたい道」を見つけるだけでなく、将来音楽業界で仕事をしていくための多くの知識を学べる、「双方の学び場」であることが大きな魅力です。実際に私も、東邦ミュージックフェスティバルに舞台制作スタッフのPA(音響)責任者として参加し、舞台音響の技術だけでなく、アーティストとしても重要な知識を得ることができました。オーディションを受けてライブハウスに出演するなど、いろんな経験を積み中で、私が進んでいく「音楽の道」を見つけたいです。

Message



中島 優那

・パフォーマンス総合芸術文化専攻
・2021年入学
・高崎健康福祉大学高崎高等学校

現役の「業界人」に学び、
質の高い実習ができる

幼いころからテレビや映画などの制作に興味があり、専攻のプロモーションに参加した際、演者、制作、それぞれを目指している学生が共にパフォーマンスしている様子に魅力を感じて入学しました。個性豊かな先生方が一人ひとりに合わせた授業をしてくださいますが、興味深い授業のひとつに「THE業界人」というものがあります。舞台やイベントに携わっている現役の「業界人」を講師に迎え、座学だけでなく、学生たちで協力しながら一つのものを作る実習もあります。将来専門家として仕事をするために必要なことを学生のうちに経験できるのは、大変ありがたいことです。

Interview

TOHO College of Music

東邦音楽大学は、少人数制だからこそ、4年の間に豊富な経験ができることも魅力のひとつです。現在3年次、4年次に在籍する3名は、東邦でいくつもの本番ステージに臨み、さらには音楽の本場ウィーンでの研修など、他では得難い経験を積んでいます。そんな日々を積み重ね、音楽のみならず人間的にも成長できたと話してくれました。

新井 あやのさん (ピアノ専攻) × 武田 真理子さん (声楽専攻) × 佐々木 佑奈さん (管弦打楽器専攻)

東邦での豊かな経験が強い自分を作ってくれる

■ 音楽への接し方が変わったウィーン研修

佐々木 私は高校3年生の時に音大進学を考えたのですが、それまで専門的な勉強はしていませんでした。なので無理をして入っても、周りについていけず押しつぶされてしまうんじゃないかという不安があったんです。そんな時、少人数制で手厚い指導が受けられる東邦音楽大学のことを知り、この大学を受験することを決めました。カリキュラムの中にウィーン研修が入っていたのも決め手です。一人で留学を考えると遠い世界のように思えますが、必修に組み込まれているのがよかったです。

新井 私は東邦中学・高校から大学に進学しました。中高生のころから、教育実習生として来た大学の先輩からいろいろと話を聞いていたので、自分も大学に進みたいと思っていたんです。特にウィーン研修の話題では、実際に写真を見せていただいたりしてすごく憧れましたね。他の大学にはないカリキュラムですし、ぜひ参加したいと思って進学を決めました。

武田 私は東邦第二高校から大学に入りました。実は、本格的に声楽を始めたのは、高校に入ってからなんです。入ってから始めるということを受け入れてくれたのが二高でした。大学には高校時代からお世話になっている先生もいらっしゃるし、アットホームな環境だということがわかっているので、安心して通えるだろうと。進学の決め手のひとつと

してウィーン研修もありましたが、これからのので少し不安もあります。どんな感じでしたか？

佐々木 海外経験豊富な先生方が引率して下さるし、行く前にも経験談を話してくれるオリエンテーションが設けられているんです。私はそれに何度も参加したので、ワクワクした気持ちで出発できました。レッスンは、アカデミーに常駐されている先生が通訳して下さいます。本場の先生が指導して下さるその熱量なども、リアルタイムに伝えて下さるので、とても勉強になりますよ。

武田 それは安心ですね。レッスンや授業にも大きな期待を持っているのですが、私はウィーンに行ったら、大好きなサウンド・オブ・ミュージックの舞台になったミラベル庭園に行ってみたいと思って楽しみにしているんです。

新井 自由時間も楽しかったですよ。みんなでザッツハトルテを食べに行っただけですが、おいしくて感動しました。街歩きもそうですが、具体的な生活についてや、「入国審査では英語でこのように答えましょう」というようなことまで、出発する前にいろんな資料を用意していただけるので、これもとても役立ちます。

佐々木 演奏会にもたくさん行きました。ウィーン楽友協会も立ち見席だとリーズナブルに入れます。お得に本物が聴けるってすごいことですよ。そしてそんな音楽が生活の中に当たり前にある中で過ごしたこと

で、それまで音楽に対して感じていた壁のようなものが壊れた気がしています。「勉強するもの」と硬く感じていたことが、「学ぶだけじゃない、学んだ先に楽しみもある」という感覚になりました。大学でウィーン研修に参加できたからこそ、得られた感覚ですね。

■ 本物が経験できることのありがたさ

武田 大学で得た経験の中で特に心に残っているのは、声楽専門の授業であるオペラ研究ですね。声楽専攻の先生方だけでなく、プロの指揮者や演出家の方を講師に招いて、プロ目線で私たちと接して下さるといって授業で、とても貴重な経験ができます。毎週稽古があり、時に辛い思いをすることもありますが、いつも本気でぶつかって下さるので、それを乗り越えた時の達成感はすごいです。レッスンでは、私の先生が詩を朗読することも大事にされているので、実際に朗読したり演技をしたりします。発音に対しては特に厳しくて、泣きながらレッスンを受けたこともありましたが、これも本気で指導して下さっている証拠です。おかげで発音がよくなって歌がクリアになり、歌詞の意味も大事に考えるようになりました。

新井 ピアノ専攻には専門のソルフェージュの授業があります。私は初見も移調も苦手だったので、人前で初見で弾く時は毎回震えてましたが、回を重ねるうちにだんだんと身体で覚えられた気がします。中学の時は少人数の中で、みんなで穏やかにピアノを弾くのを楽しむ雰囲気でしたが、高校、大学から、新入生が入ってくると、いい意味で「負けてられない」という気持ちが芽生えてきました。一生懸命ピアノに打ち込んで、気づいたら4年生になってたって感じです。

佐々木 私はとにかく自分に自信がなかったので、普段の自分と、楽器に向かっている時の自分を分けて考えていました。ソロのレッスンやウィンドオーケストラの授業を受けるうちに、楽器を通して普段の自分、個性を出していいんだということに気づいて。そうしたら「腕を上げたね」と言っていただけになりました。また、少人数制なので、1年生から平等に合奏に参加できる機会があるのは、東邦ならではのですね。4年

間ずっと合奏を学ぶ機会があるので、だんだんと自分から表現について発信するようなこともできたかなと思います。本番の回数も多いので、失敗も経験として積み重ねていけるんです。挑戦を怖がらなくていいんだって思える。挑戦から逃げない度胸がついたのは、東邦だからこそ得られたことだと思います。

■ 経験の中で、自分のやりたいことを見つける

佐々木 仲間もみんな前向きです。大学も応援してくれる環境で、自分たち発信の大規模な自主公演などを行ううちに、だんだんとリーダーを務める機会も増えました。ウィンドオーケストラの自主公演を企画した時、ホールの方と接することがありました。その仕事を見ていると、卒業後に音楽を続けていく道はプレイヤーとしてだけでなく、プレイヤーを支える側にもあるんだなと気づき、コンサートホールに就職を決めました。4年間いろんな経験をする中で、自分のやりたいことを見つけられて感謝しています。

新井 クラスコンサートやミュージック・フェスティバルなど、グラントツァールという素晴らしい音楽ホールを使って、たくさん演奏会に参加できたのもとても良かったです。学生のうちから本物のステージをたくさん経験できたことは、音楽のみならず、礼儀だったり、生き方すべてに良い影響を与えてくれたと思います。私は卒業後、東邦音楽大学大学院に進学します。音楽の先生を目指していて、中学、高校の教員免許は取得済みですが、これから小学校教員免許のための勉強を進めつつ、大学院でピアノの技も磨くつもりです。

武田 私は今年4年生になりますが、卒業後も自分の声を活かせる仕事を続けていきたいと思っています。私は中学生のころから声優として活動して、在学中も活動することを受け入れてくれたのは東邦が初めてだったんです。先生方も仲間も、応援して下さるので、その応援に応えていきたいなと思います。今の声優は、声の演技だけでなく歌も歌えなくてはならないし、仕事の範囲が広がっています。東邦で音楽の学びを深め対応できる幅を広げていきたいですね。





東邦音楽短期大学

TOHO Junior College of Music

東京都心で高度な技術と教養の習得を
目的とした幅広い音楽教育を展開。
アットホームな空間は同じ志を持つ仲間との
忘れられない出会いの場となります。

Vocal
Piano
Piano Instructor
Wind, String and Percussion Instruments
Electronic Organ
Singer-songwriter Artist
Music Culture

T
O
H
O

#東邦だからできること

One to One Quality

取得学位
短期大学士 [音楽]

本学の音楽科を卒業した者に
短期大学士の学位が授与されます

声楽専攻

Vocal



器楽専攻 ピアノコース

Piano



専門的な技術と 社会に貢献できる豊かな人間性を育む

声楽は「身体」を楽器とし、音楽の中で唯一「言葉」を伴う芸術です。その道を追求するには正しい呼吸法や身体の使い方を会得し、旋律や響きに対する美的感覚と、言葉や詩情への洞察力を磨くことが大切です。「伝える」ための専門的な技術・表現力を養う指導により、社会に貢献できる普遍的な価値観と豊かな人間性を育みます。

主な履修科目

必修科目	選択科目
【音楽専門教育科目】 和声学 1・2 音楽の基礎理論 専攻実技 1～4 (声楽) 合唱 I 演奏演習 ソルフェージュ 1・2 【基礎教育科目】 東邦スタンダード I・II キャリアデザイン	【音楽専門教育科目】 和声学 3・4 THE プロフェッショナル 音楽史 楽器の特性と機能 作曲家の人生と作品 I・II 伴奏法 合唱 II ソルフェージュ 3・4 他

※全履修科目はP17参照

きめ細かい指導で 潜在能力を引き出す

優れたピアノ演奏に必要な高い技術と、豊かな表現のための知識を身につけ、音楽的な感性を磨いていきます。さらに、アンサンブルの授業を通して、ともに音楽を作る喜びを味わいながら、スキルを高めます。専門を土台として広い教養を培い、各自の可能性を最大限に引き出す中で、将来、実社会で活用できる生きた学習を目指します。

主な履修科目

必修科目	選択科目
【音楽専門教育科目】 和声学 1・2 音楽の基礎理論 専攻実技 1～4 (ピアノ) 伴奏法 合唱 I 演奏演習 ソルフェージュ 1・2 【基礎教育科目】 東邦スタンダード I・II キャリアデザイン	【音楽専門教育科目】 和声学 3・4 ピアノ指導者教材研究 サウンドクリエーション THE プロフェッショナル 音楽史 アンサンブル (ピアノ) I・II 即興演奏 他

※全履修科目はP17参照



山崎 明美
・声楽専攻主任/特任教授

Message
個々の可能性を引き出し、
夢をサポートします！

東邦音楽短期大学声楽専攻では、声楽の基礎をしっかり身につけることができます。歌うのが好きという方、本格的にヴォイストレーニングを受けたいと思っている方、一人ひとりの可能性を引き出す呼吸法や、心に伝わる言葉の発し方を丁寧に伝授しますので、学べば学ばほど成長と声楽の楽しさを実感していただけるはずです。「情操豊かな人格形成」を目的とする本学の教育によって、さらなるステップアップを目指しましょう。



保科 果音
・声楽専攻
・2022年入学
・東京都立王子総合高等学校

Message
クラシックを超えて
視野を広げるチャンスを与える

私はいずれ自分で音楽教室を開き、声楽とピアノを教えたいという夢があります。そのためにまずは音楽関係企業に就職したいと考えており、インターンシップで楽譜出版社での仕事を体験できたのは、大変有意義でした。「レッスンマネージメント」という授業では、教室の規約作成や発表会の企画を実践的に学べます。また、「THE プロフェッショナル」という授業では、ポピュラー音楽やダンスなど、その道のプロとして活躍されている方を講師に迎えてお話を聞くことができ、新たな発見がありました。他ジャンルに触れる機会も多く、視野が広がっていくのを感じます。



中島 裕紀
・教授

Message
ピアノの学びは、生涯、
喜びをもたらしてくれる宝。

ピアノは一人でオーケストラの音楽を奏でられるような魅力的な楽器です。よりよい演奏のためには、基礎力を高める積み重ねと、音楽表現への自発的なアプローチが必要です。日々問題に向き合い解決していく過程には、多くの発見があります。それは「生涯にわたって喜びをもたらしてくれる宝」を育てるようなもので、やがてあなたの人生の友となってほほえみかけてくれるでしょう。そんな素晴らしい世界と一緒に体験しませんか。



アンドリュース 翔彩
・ピアノコース
・2022年入学
・新島学園高等学校

Message
自分を見つめ、
音楽という生きがい追求できる場所

私は「私にしか出せない音で、聴く人の様々な感情を思い起こさせ、音楽が好きだと思っていただけのような演奏家」を目指しています。世界的に感染症が流行した時に留学の予定が断たれて、私が心身不調に陥ったときも、東邦の先生方は親身になってケアしてくださいました。恵まれた環境の中、安心して音楽に向き合うことで、自分自身の経験や思考を音楽に活かせるようになりました。喜怒哀楽はもちろん、愛しい、寂しいなど、様々な感情をフレーズに乗せて演奏することで、表現の幅が広がってきたと感じます。

器楽専攻 ピアノ指導者コース

Piano Instructor



器楽専攻 管弦打楽器コース

Wind, String and Percussion Instruments



幅広く活躍できる

指導者・教育者を養成

人々にピアノの素晴らしさを伝えられるよう、教材、奏法、対人コミュニケーション、児童に接するうえでの知識を実践的に学びます。音楽の指導者は、音楽文化を支える存在。確かな専門性で、音楽の魅力世に広める人材を育てます。また、指導者として活動中の方がさらに指導力を高めるためのカリキュラムも用意しています。

主な履修科目

必修科目	選択科目
【音楽専門教育科目】 和声学1・2 ピアノ指導者教材研究 レッスンマネジメント 音楽の基礎理論 ピアノ指導法1～4 専攻実技1～4(ピアノ) 伴奏法 合唱Ⅰ 演奏演習 ソルフェージュ1・2	【基礎教育科目】 東邦スタンダードⅠ・Ⅱ キャリアデザイン 【音楽専門教育科目】 和声学3・4 音楽史 即興演奏 ソルフェージュ3・4 リトミックⅠ・Ⅱ 他

※全履修科目はP17参照

確かな理解に基づく

表現力・演奏能力を身につける

楽器の習熟過程では、技術のみならず、各パートのかかわりを理解して演奏するバランス感覚を養うことが重要です。個人レッスンで演奏技術を磨き、アンサンブルやオーケストラでは仲間と音楽をつくり上げるための協調性を身につける——この両軸の学びを通じ、音楽人、社会人として大きく成長しましょう。

主な履修科目

必修科目	選択科目
【音楽専門教育科目】 和声学1・2 音楽の基礎理論 専攻実技1～4(管弦打楽器) 合唱Ⅰ 演奏演習 ソルフェージュ1・2 【基礎教育科目】 東邦スタンダードⅠ・Ⅱ キャリアデザイン	【音楽専門教育科目】 和声学3・4 音楽史 楽器の特性と機能 作曲家の人生と作品Ⅰ・Ⅱ オーケストラⅠ・Ⅱ ウインドオーケストラⅠ・Ⅱ アンサンブル(管弦打)Ⅰ・Ⅱ ソルフェージュ3・4 他

※全履修科目はP17参照

Message



國谷 尊之
・教授

音楽で社会に貢献する、素晴らしい指導者の育成。

これからの社会は、文化を深めること、人生を豊かにすること、生涯を通して学び続けることが重要になってきます。人々にピアノの楽しさを伝え導く指導者を育てる本コースの学びは、それらに直接役立つでしょう。自らも音楽を楽しみながら教えることで社会に貢献し、人との素敵な出会いも体験できる「ピアノ指導者」は素晴らしい仕事です。旧来の考え方やメソッドだけにとらわれず、好奇心と向上心を持って一緒に進みましょう。

Message



静谷 胡春
・ピアノ指導者コース
・2022年入学
・栃木県立小山北桜高等学校

人を上達させるために自分を磨く

素敵なピアノ講師になることを目標に音楽大学進学を考えていたとき、東邦音楽短期大学にピアノ指導者を養成するコースがあることを知って入学しました。実際にピアノ講師の目線でレッスン内容や指導の仕方を考える授業や、子どもを上達させるために必要な要素や教材の選び方を学べるところがピアノコースとの違いであり、大きな魅力です。以前は自分が音楽を楽しむだけでしたが、「相手を楽しませる音楽」という意識を持つようになりました。また、礼儀や音楽の深い知識を身につけることもでき、ピアノ講師になる夢に日々近づけている気がします。

Message



宮野 陽子
・管弦打楽器専攻主任教授
・ヴァイオリン

自分のためにも、社会のためにも大切な学びです。

コミュニケーション能力を養い、豊かな人間性を育むアンサンブルの授業が本コースの柱。これは自分が他者にどのような影響を与えられ、社会にどう貢献できるかを考える機会にもなり、将来の希望につながります。その夢に向かって努力を怠らなければ、普通の音楽に携わる一人として必ずや活躍の場に出会えるでしょう。あなたの学びは、自分のためにも、人々のためにも、社会のためにも大切なのだという自覚と自信を持って歩んでください。

Message



中村 杏
・管弦打楽器コース(フルート)
・2021年入学
・八戸工業大学第一高等学校

好奇心を引き出し、思いを受け止めてくれる場所

東邦音楽短期大学では、自分の学びたいことを追求することができます。意見を出し合い、たくさん挑戦できる場所です。ソロ以外ではウインドオーケストラや室内楽など、大学生と一緒に演奏する機会もあり、周りの音を聴く重要性に改めて気がつきました。「楽器の特性と機能」という授業で楽器の成り立ちや仕組みを知ることもできました。短大での学びを通して、たくさんの楽器にも興味を持ったこと、また、インターンシップに参加したことが、将来について考える貴重な機会となり、卒業後は演奏家に信頼される管楽器修理技術者になりたいと考えています。

器楽専攻 電子オルガンコース

Electronic Organ



多様なジャンルで 音楽表現の幅を広げる

さまざまな音楽スタイルの知識と演奏技術を身につけ、自由に楽しみながら自分の音を表現できる「即興力・アレンジ力」を高めることを目指します。電子オルガンの機能や操作を学ぶ基礎トレーニングから、楽典、コード・プログレッションまで、個々のレベルに合わせた指導の中で、総合的な音楽力の成長を促します。

自らの経験を磨き、 音楽の素晴らしさを人々へ。

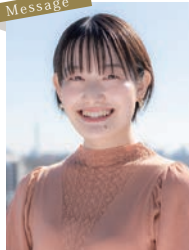
本コースが目指す将来は、演奏者や指導者の道、楽器に関する知識と経験を生かした営業職や販売職への従事、音楽を通じた介護・福祉やボランティア活動の実践など多岐にわたります。それらに対応すべく、少人数による細やかな指導で個々の趣向を尊重しながらも、多様なスタイルの演奏力を養い、アレンジ力や創作力も高めていくことを重視しています。音楽の素晴らしさを人々に広めるためにも、自らの経験に磨きをかけましょう。

主な履修科目

必修科目	選択科目
【音楽専門教育科目】 和声学 1・2 音楽の基礎理論 専攻実技1～4 (電子オルガン) 電子オルガン即興演奏Ⅰ・Ⅱ 合唱Ⅰ 演奏演習 ソルフェージュ 1・2 【基礎教育科目】 東邦スタンダードⅠ・Ⅱ キャリアデザイン	【音楽専門教育科目】 和声学 3・4 レッスンマネージメント サウンドクリエーション THE プロフェッショナル 音楽史 アンサンブル (電子オルガン) Ⅰ・Ⅱ ソルフェージュ 3・4 他

※全履修科目はP17参照

Message



川端 彩水

・電子オルガンコース
 ・2019年入学
 ・埼玉県立草加南高等学校

自分発信で 音楽を表現する力を習得

音楽教室の講師になりたいという夢があり、そのための知識や経験を得るために東邦音楽短期大学に入学しました。レッスンでは、先生が一人ひとりをきちんと見てくれるため、個人のレベルに合う課題やアドバイスをいただけるのが魅力です。エレクトーンアンサンブルのレッスンでは、みんなで一つの曲を作り出す難しさを改めて感じ、充実した時間となりました。今では、自分で作り出したり、アレンジをしてみたりと、以前よりも自由に音楽を表現できるようになったと感じています。おかげで夢は叶い、希望の音楽教室に採用していただきました。

シンガーソングライター・アーティスト専攻

Singer Songwriter Artist



思い描いた音楽を創作するスキルと 表現者としての心を養う

クラシックの芸術性とポップスの文化を重ね合わせて学べる本専攻では、楽典や理論の学習・研究に加え、制作現場を体験する「レコーディング実習」やプロ奏者と協演する「ライブ実践」も行います。これにより自分が思い描く音を創作するスキルを磨き、表現者としての心を養います。

Message



城之内 ミサ

・特任教授

明確な目標を抱き、創作と 表現の多様性を学びます。

この専攻の醍醐味は、クラシックの芸術性とポップスの文化を両面から学べること。アカデミックな理論を勉強しながら、現代の音楽も見据えたスキルを磨くことができます。音楽制作は「作品(楽曲や歌詞、歌やパフォーマンス)を通して何を伝えたいか」を表現するものですから、明確な目標を持つことが大切です。実践的な授業で創作力と表現力を身につけた多くの学生が、ここから多様なチャンスをつかみ、羽ばたいています。

主な履修科目

必修科目	選択科目
【音楽専門教育科目】 THE プロフェッショナル 音楽の基礎理論 スタジオワークエクスプレッションⅠ・Ⅱ 専攻実技1～4 (シンガーソングライター・アーティスト) 合唱Ⅰ 演奏演習 ソルフェージュ 1・2	【基礎教育科目】 東邦スタンダードⅠ・Ⅱ キャリアデザイン 【音楽専門教育科目】 和声学 1～4 シンキングポップス サウンドクリエーション 即興演奏 ソルフェージュ 3・4 リトミックⅠ・Ⅱ 他

※全履修科目はP17参照

Message



山口 香織

・シンガーソングライター
 ・アーティスト専攻
 ・2022年入学
 ・群馬県立西邑楽高等学校

自分が作詞作曲した曲を たくさんの人々に届けたい

もともとクラシックを学んでいましたが、ギターやピアノの弾き語りが好きだったので、ポップス系の専攻を選びました。この専攻の一番良いところは、自分だけの音楽を表現できるようになることです。先生はとても優しく、実技はもちろん、将来のことにもアドバイスをしてくださいます。レコーディング実習では、自分が作詞作曲した曲を、楽器と歌で別々にレコーディングし、プロの方に編集していただくという貴重な経験ができました。他ジャンルに触れる授業も多く、見聞を広めることができます。自分がやりたい音楽を表現できる技を、東邦で磨いていきたいです。

音楽教養専攻

Music Culture



生活・社会を豊かにする 音楽に幅広くアプローチ

「大好きな音楽を本格的に学習したい」「音楽の知識を深めたい」など、個々の興味や目標に応じ、多方向から音楽にアプローチできる専攻です。社会人入学者も多く、多様な世代が音楽を通じて交流できることも魅力。人生・生活・社会を豊かにする音楽を、一緒に学びましょう。

主な履修科目

必修科目	選択科目
【音楽専門教育科目】 音楽教養専攻実技 1～4 合唱Ⅰ 演奏演習 【基礎教育科目】 東邦スタンダードⅠ・Ⅱ キャリアデザイン	【音楽専門教育科目】 和声楽 1～4 音楽の基礎理論 音楽教養基礎講座【楽典】Ⅰ・Ⅱ 音楽教養基礎講座【ソルフェージュ】Ⅰ・Ⅱ 楽曲の楽しみ方Ⅰ・Ⅱ 作曲家の人生と作品Ⅰ・Ⅱ 合唱Ⅱ ソルフェージュ 1～4 他

※全履修科目はP17参照

Message



桜井正夫
・音楽教養専攻
・2022年入学

難解な和声学も パズルを解く感覚で取り組む

私は高校時代に混声合唱を、物理学を専攻した大学時代では男声合唱を、さらに卒業後もOB会に所属し、仕事の余暇に40年間歌ってきました。退職をきっかけに、ただ歌うだけでなく音楽を基礎から学び直したいと思い、東邦音楽短期大学に入学を決めました。対面での一对一のレッスンを受け、独学では得られなかった技術を習得できましたし、年をとると判断に時間がかかって覚えも悪いですが、先生方は優しく指導して下さいます。東邦は音楽を学ぶための環境もすばらしく、音楽関連図書以外にもたくさんの資料がそろっている図書館に入り浸る毎日です。

Message



中村晶子
・音楽教養専攻
・2022年入学

時間が足りないほど 音楽に浸る日々を満喫中

東邦音楽短期大学は、音楽を専門的に勉強したいという長年の夢を具現化できた場所です。合唱団に所属し、それまでほぼ独学で勉強していましたが、生活や仕事が変わるタイミングで思い切って入学。先生は丁寧に指導して下さるし、どの授業もとてもおもしろく、特に楽器の機能と特性の授業では、その楽器の一流の演奏者が愛情いっぱいにお話して下さり、すべての楽器を学んでみたくなるほどです。音楽を仕事に活かすことは考えていませんが、奥深い音楽の世界を、東邦でもっと掘り下げて勉強したいです。

Interview

TOHO Junior College of Music

「音楽を幹にした豊かな人間性の育み」を目的とした一貫教育の中で、二年制の短期大学はどんな特長を持っているのでしょうか。東京の中心部に位置する学会で、幅広い音楽教育を展開する東邦音楽短期大学。ここで、それぞれの将来に向けて学ぶ3名の在學生に「なぜ短大を選んだか」、そして「東邦だからできること」を聞きました。

厚川 ももさん (器楽専攻ピアノコース) × 中村 杏さん (器楽専攻管弦打楽器コース) × 伏木 結海さん (声楽専攻)

■ 短大は幅広い将来への入り口

厚川 私は小さいころから宝塚歌劇団に入りたくて頑張っていました。本当に狭き門なので、思いは叶いませんでした。それでも音楽には携わっていたい、歌も磨きたい。急いで進路を決めるのではなく、いろんな選択肢を残しておきたかったので、短大進学を決意しました。東邦なら、もっと学びたいと思えば大学に編入することもできますし、他の進路を考えることもできます。新しい入口がたくさんあるのがいいと思います。

中村 私は、高校の吹奏楽部でフルートを吹きながら個人の先生に習っていました。卒業してもフルートを続けたくて、音大を受験しようかと考えたんですが、演奏以外の楽典や聴音など音楽に必要な知識が身につけていなかったのが不安だったんです。合格できても、もともと勉強してきた人たちに追いつけず、馴染めないんじゃないかって。そんな時、東邦短大なら入学してから音楽の基礎的な授業も受けられると聞いたので、まずそこで基礎固めをしてから、大学に編入できればと考えました。

厚川 私は附属中学からずっと東邦生です。高校卒業後の進路についてさまざまな進学先を考えた時期もありましたが、私を育ててくれた中学、高校と同じ文京キャンパスにある短大でじっくり学ぶことにしました。

■ 自分の時間を大切にできる環境

厚川 短大に入って専攻ピアノの先生は変わりましたが、以前私が体験レッスンを受けたことを覚えてくださっていたんです。東邦の先生方はみなさん温かくて、学生一人ひとりを気にかけてくださっているのが伝わってきます。

伏木 アットホームな感じがすごいですよね。リラックスできて居心地がいいです。私は短大に通いつつミュージカルなどに出演することもあるので、学校にいる時間こそ短いけれど、それでも愛を感じられることが多いです。先生方はもちろん、学校の教務、庶務の方々のサポートが手厚くて、皆さんが応援してくれている気持ちが伝わってきます。学生もみんな個性的だから、人の個性を当たり前に受け入れてくれる空気があります。

厚川 居心地がよくて、家にいるより学校にいる時間のほうが長いです。友達も、ただの「仲良しこよし」っていう関係ではなくて、同じことを目指しつつ育む友情、これが音大生ならではのかなと思います。みんな自分の目標を持ってて、その中で仲良くなるから、自分の時間を大切にできていると思っています。

中村 私は普通科の高校から入ってきたので、それまでまわりに音楽を勉強している人はいませんでした。入学したらいきなり、全員音楽を真剣にやっている人たちばかり。この中に入っていけるかな？



Momo Atsukawa

Aiko Nakamura

Yumi Fushiki

と心配しましたが、みんな大人なんです。ちゃんと「自分」を持っているから、いい距離感で接することができるし、はっきりと意見を持つてから、相談すれば一緒に考えてくれます。それぞれいろんな価値観があるけど、認め合っている、よい関係です。

■ 経験を通じて、生き方を学ぶ

伏木 短大は少人数制だから、専攻を越えて全員で行う授業も多いけれど、特に印象に残っているのは、やっぱり「演奏演習」ですね。私たちは沖縄の小学校を訪問して演奏しました。

中村 演奏あり、パフォーマンスありのステージを企画しますが、演奏者としてステージに立つだけじゃなく、脚本を作ったり全体の構成を考える「裏方」も自分たちでやります。準備は確か半年くらいでしょうか？あつという間だったから、気づいた時には本番が終わって「お疲れさま！」と言っていた印象です。

厚川 先生方も協力的で出演してくださるんですね。アニメのキャラクターに扮して演奏すると企画すれば、楽しんでやってくれたり、楽しかった思い出しかありません。

中村 宿泊したホテルのラウンジにグランドピアノがあって、練習のために弾く許可をいただいたんですけど、みんなで楽器を持ち寄って練習したらライブみたいになったことがありましたよね。

厚川 ちょうど修学旅行中の高校生がいて、どんどん集まってきて聴いてくれました。

伏木 サプライズなことだったけど、すごく思い出に残っています。私は将来、プロとしてお客様からチケット代をいただいて華やかにステージに立つのが夢ですが、小学生の子どもたちを前にして歌った時、みんなが心から楽しんでくれるのが伝わってきました。チケットを買ってくれるかどうかじゃなくて、芯から楽しんでくれるお客様に向けてパフォーマンスできることは、ひとつの生き方として素敵だなと思いました。

厚川 「演奏演習」をはじめ、短大の授業でいろいろな経験をしたことで、それまでは次の試験のために日々練習していたのが、半年に一度の試験を本番だと思って、イベントに向かって音楽を作っていくような感覚を持てるようになりました。

■ 実践することで見えてくる新たな道

伏木 私のもっと学びを深めたいと思い、大学に編入することにしました。教職課程も履修しようと思っています。目標は変わらずプロとしてステージに立つことですが、教職をとることで、もっと違った形で音楽に携わっていけたらと思ったからです。将来への考え方が広がったのも、短大での2年を経験して得たことですね。

中村 私も、2年間短大で勉強していく中で新しい目標が見つかりました。入学したころは、ただフルートを続けたいという思いだけでしたが、短大でいろんな経験をするうちに、楽器を修理する側に興味を持ちました。卒業後はリペアの学校に進むことになっています。キャリア支援の一環で「インターンシップ」という科目を選択できるのですが、それで楽器メーカーに行かせてもらったことがきっかけです。その話をキャリア支援の先生にしたところ、リペアについて学べる学校や、その先の企業についても調べてくださいました。先生方がいつでも相談しやすい環境にしてくれたことは本当にありがたかったです。

厚川 私も大学に編入しますが、音楽以外のことも経験していきたいと思っています。ずっとピアノを続ける道もありますが、以前から興味があったプログラミングの勉強をしたり、アルバイトですが、好きなキャラクターショップのサイトの制作を担当し、写真の撮り方やイラストレーター、フォトショップなどの使い方も学んでいます。いざ社会に出るときに、どんな選択でもできるように、ピアノと両立させて頑張っておきたい。ピアノはもちろん頑張りますが、欲張って興味のあることに挑戦する私を全力で応援してくれるのが、東邦の素敵なおところだと思います。

東邦音楽大学大学院

TOHO Graduate School of Music

プロの演奏家や指導者を目指して
専門分野の研究に没頭する2年間。

深い教養に裏打ちされた演奏で
音楽の本質へと迫る道筋を見出します。

Piano
Wind, String and Percussion Instruments
Vocal
Composition

取得学位

修士〔音楽〕

音楽研究科(修士課程)を修了した者に
修士の学位が授与されます



音楽表現専攻

Music Performance Studies



専門分野の研究に没頭する2年間

東邦音楽大学大学院では、4つの専門コースを設け、優れた技術力と真の能力を有するプロフェッショナルな音楽家の育成を行っています。

器楽表現コース(ピアノ領域)

Piano

より専門的な技術の習得と表現力豊かな演奏をめざす

作品の時代的背景、構造、様式観を研究し、より専門的な技術の習得と連携させ、表現力豊かな演奏をめざします。ウィーンアカデミー特別研究では西洋音楽の歴史・文化に触れ、現地に於いて貴重な文化経験を積みます。各自の研究計画を基にレパートリーの拡大を目標とし、1年次生は12月に研究成果を発表します(1年次生演奏会)。2年次生は学位審査修了演奏会のプログラムおよび修士論文作成の準備を行います。

教育課程

- ピアノ特別演習I・II
- アンサンブル表現研究A(伴奏法)
- アンサンブル表現研究B(ピアノアンサンブル・室内楽)
- 鍵盤音楽史研究
- 作品研究A(バロック・古典期)
- 作品研究B(ロマン期以降)
- 文献研究I・II
- 演奏表現研究
- 身体表現演習
- 民族音楽表現法研究
- 音楽と情報
- ウィーンアカデミー特別研究
- 楽書研究
- フランス語
- 他の研究領域開設科目



器楽表現コース(管弦打領域)

Wind, Strings and Percussion Instruments

専門楽器の演奏能力向上を目的に学ぶ

ウィーンアカデミー特別研究では歴史、文化等、さまざまな角度から西洋音楽の要を修得。さらに管弦楽、室内楽の主要作品を研究し、より深い理解を伴った演奏能力と知識を養います。なお、1年次では12月に研究発表(1年次生演奏会)、および修士論文のテーマを決め、2年次では修士論文の作成、および学位審査修了演奏会が柱となります。感性と知性のバランスを重視したクオリティーの高さをめざします。

教育課程

- 管弦打特別演習I・II
- アンサンブル表現研究(室内楽)
- 作品研究(室内楽)
- 管弦楽史研究
- 文献研究I・II
- 演奏表現研究
- 身体表現演習
- 民族音楽表現法研究
- 音楽と情報
- ウィーンアカデミー特別研究
- 楽書研究
- フランス語
- 他の研究領域開設科目



声楽表現コース(声楽領域)

Vocal

幅広い柔軟な能力の修得を目的とする

ソリストとしては、リサイタルを開ける技術と識見を、教育者としては、多様な対象者の個性を開発する、幅広い柔軟な能力の修得を目的としています。声楽特別演習を中心に各種作品研究では各自それぞれの課題を深め、アンサンブル表現研究では調和、協調の技術と精神を育みます。1年次では12月に研究発表(1年次生演奏会)を行い、修士論文の課題を決定。2年次では修士論文を提出し、学位審査修了演奏会を行います。

教育課程

- 声楽特別演習I・II
- 作品研究A-I・II(日本歌曲)
- 作品研究B-I・II(外国歌曲)
- 作品研究C-I・II(オペラ)
- アンサンブル表現研究(声楽)
- 歌曲・オペラ史研究
- 文献研究I・II
- 演奏表現研究
- 身体表現演習
- 民族音楽表現法研究
- 音楽と情報
- ウィーンアカデミー特別研究
- 楽書研究
- フランス語
- 他の研究領域開設科目



作曲表現コース(作曲領域)

Composition

「曲を作る力」を確かなものにし、全てのジャンルの曲を作る力をめざす

これまで培った「曲を作る力」をより確かなものにし、スケールの大きい曲、表情豊かな曲、マスメディアに活かせる曲など全てのジャンルの曲を作る力をめざします。そのためには歴史上の巨匠たちの作品分析も重要な課題のひとつです。1年次には1年次演奏会における作品演奏と、ウィーンアカデミー特別研究があり、2年次には修士論文と修士作品の提出があります。

教育課程

- 作曲特別演習I・II
- 作曲技法特別研究I・II
- 管弦楽法表現研究I・II
- 楽曲表現研究I・II
- 作曲楽書特別研究
- 民族音楽表現法研究
- 文献研究I・II
- 演奏表現研究
- 身体表現演習
- 音楽と情報
- ウィーンアカデミー特別研究
- 楽書研究
- フランス語
- 他の研究領域開設科目



大学院生からのメッセージ

Messages from Graduates



Yurika Kameda

01
亀田 友理佳さん [声楽表現コース(声楽領域) / 2021年入学]

自分を知り、受け入れ、
自分軸という宝物ができた「心の故郷」

大学4年の時に、ドニゼッティ《愛の妙薬》の「アディーナとネモリーノの二重唱」を授業で歌わせていただき、オペラの楽しさと深さに感動したことが、大学院進学を考えたきっかけのひとつとなりました。

大学院で特に好きだった授業は、アンサンブル表現研究(オペラ研究)という、本番に向けて重唱を勉強するものです。声楽の先生による音楽稽古から始まり、演出や指揮の先生から繊細な音楽表現・体現を学びます。プロの現場では厳しいことを求められますが、自身の役が難しくれば難しいほど愛着が湧きますし、パートナーと歌でのコミュニケーションが成り立ち始めた瞬間の嬉しさに変えられるものはありません。学部から4年間履修しましたが、学ぶ過程は毎回が気づきと興奮に溢れていました。

学内・学外での演奏機会に恵まれ、多くの方々と接する中で、音楽は一人だけでできるものではなく皆で作っていくものだということを強く認識しました。裏で支えてくださる方々、聴衆、演奏者の共同作業です。自分の音楽性や音

楽観もその中で鍛えられ、独りよがりではないこと、臨機応変に動けることが重要だと考えるようになりました。

また、学部、大学院と二度ウィーン研修に参加できたことも私の大きな財産です。アカデミーの環境は素晴らしく、街には音楽が絶えず溢れ、古くからある建造物の装飾から歴史、空や植物の色彩の濃さなどが感じられ、作曲家たちが受けたであろうインスピレーションの源を目の当たりにすることで、想像力を高めることができました。またレッスンにおいては妥協のない先生の教えが、留学を決意するきっかけにもなりました。

東邦には何もないまま飛び込んできましたが、今となれば、自分を知り、自分軸という宝物ができたように思います。「2年後、この選択をしてよかったと思えるようにがんばりたい」と日記に綴っていましたが、言葉以上のものを得ることができました。東邦の持つあたたかい雰囲気と集中して学べる環境には、感謝してもしきれません。



Kotomi Sasaki

03
佐々木 琴美さん [器楽表現コース(管弦打領域) / 2021年入学]

ずっと音楽と共に生き、
まだ知らない自分と出会ってみたい

大学4年の冬、楽器を続けるか教員になるかで迷っていた私は、家族や先生、先輩の後押しもあり、大学院への進学を決めました。

大学院ではたくさんのことに挑戦しました。初めての環境で怖さを感じることもありましたが、それに打ち勝つには自分と向き合うしかありません。たくさん準備をした結果、コンクールで1位を取ることができた経験は、この道で生きていくという覚悟にも繋がったと思います。また、楽器の枠を超えて先生方と繋がりを持てるのは、少人数制ならではの特権だと思います。

大学院2年の修士演奏会の前にはピアノの先生にレッスンしていただいたことで、音楽の解像度がとても上がったと感じました。

ウィーン研修は、忘れていた好奇心を思い出させてくれました。コロナ禍にあって、前を向きつつもいろんなことを諦めていた中、ウィーンに行って枯れた心がうるおい、満たされるような感覚を覚えました。それは街中のい

たるところにある美術品だったり、芸術を愛する文化であったり、人のやさしさに触れることができたからだと思います。

音楽を演奏するにあたり、言語の影響はとても大きいと感じ、語学勉強に前向きに取り組もうと思いました。単語ひとつとっても話し方が変わるだけで伝わる熱量が変化するように、音もそうでなければいけない。口先だけでも話せてしまう日本語にはない発音やアクセントは、音楽を演奏する上でとても重要であると気づき、以来、語学勉強に励んでいます。

大学院への進学を迷っていた大学4年のころは、この道で生きていく方向に振り切れていませんでしたが、今は覚悟を決めて、道を切り開いていくぞという気持ちでいっぱいです。自分と向き合う時間が多くあったからこそ、自分が

どんな人間で、どんな音楽をやりたいのかをよく知ることができました。これから、まだ知らない私と出会っていくことが楽しみです。



Mayu Usagawa

02
宇佐川 真由さん [器楽表現コース(ピアノ領域) / 2021年入学]

音楽の内側にじっくりと向き合い、
一生をかけて学ぶ楽しみを見出した2年間

大学での4年間、音楽と共に充実した日々を過ごしましたが、よりさらなる課題に向き合っ

て学びたいという思いから大学院に進みました。大学院の友人たちは、音楽に対する情熱も高く、興味関心のある分野が幅広いと感じます。音楽をはじめアート・教育・政治・哲学・人文学と多くの分野の話題でディスカッションし、いろいろな物の見方を身につけていくことができましたように思います。これは授業でも同様です。先生方と一つの話題について多くの意見を交わすことで、学びが一層深くなりました。『身体表現演習』という授業では、バレエの基礎から応用までを教わるのですが、身体を使った表現技法と同時に、音楽にも通じる「基本の上に更なる表現が加わる」ことを学びました。

また、演奏の学びを深めるために、ソロ、伴奏、アンサンブルと、たくさん本番の経験を積みました。そこで自分というものを見つめながら、自分自身の演奏スタイル、自分の音色を探求した2年間でした。

ウィーン研修で得たものもとても大きかったです。街を歩けば荘厳華麗な建造物が多く、文化の薫り漂う優雅で美しい町並みで、かつての隆盛を肌で感じることができます。毎晩、オペラや演奏会が開かれているウィーンでの生活は、芸術の海の中に潜っているような、刺激的な毎日でした。ピアノのレッスンでは、良い響きを持つ音を出すためにはどのようにすればいいのか、どのようなテクニックが求められるのか、ということを徹底的に学ぶことができました。

大学院では、学部生のころより内省的な時間を多く過ごしたように思います。楽譜の行間やその裏側に書かれていることを読み込んでいくことで、その作品の本質や精神を捉え、自分自身の音色で表現していく領域まで昇華させていく。これこそが音楽の楽しみや難しさに繋がっていると感じます。だからこそ、音楽は一生をかけて学んでいくおもしろさがあるということを知りました。



TOHO Graduate School of Music



指導陣

leadership

TOHO College of Music

TOHO Junior College of Music

TOHO Graduate School of Music

教員紹介



大学



短期大学



大学院

名誉教授

井上 純子 ピアノ
 春日 洋子 ピアノ
 田崎 睦子 ピアノ
 有山 静枝 声楽
 大月 早苗 声楽
 佐浦 國雄 声楽
 渡辺 三郎 合唱
 菅原 早苗 フルート
 大森八重子 クラリネット
 蓬田 清重 ヴァイオリン
 大久保 淑人 ヴィオラ
 片柳 英男 作曲

役職教員

三室戸 東光 学長
 粕谷 宏美 副学長(研究・産学官連携担当)
 高橋 幸雄 副学長(教育担当)
 佐藤 泰弘 大学院音楽研究科長
 片岡 啓子 図書館長
 山崎 明美 教務部長
 高橋 幸雄 学生部長
 遠山 菜穂美 教務部長補佐
 國谷 尊之 学生部長補佐

ピアノ

大場 文恵 主任/特任教授
 國谷 尊之 教授
 小林 律子 教授
 中島 裕紀 教授
 太田 幸子 特任教授
 秦 はるひ 特任教授
 藤井 一興 特任教授
 浦川 玲子 専任講師
 中島 剛 専任講師
 野田 説子 特任講師
 浅野 和子 講師
 泉 玲子 講師
 亀山 久美子 講師
 藪田 京子 講師
 藤原 新治 講師

声楽

山崎 明美 主任/特任教授
 片岡 啓子 特任教授
 佐藤 泰弘 特任教授
 石 倚潔 特任教授
 伊藤 和広 准教授
 武藤 直美 准教授
 大槻 孝志 特任准教授
 岩見 真佐子 専任講師
 外山 愛 特任講師
 大島 洋子 講師

管弦打楽器

宮野 陽子 主任/教授/ヴァイオリン
 浅野 高瑛 演奏部長(オーケストラ、ウインド
 オーケストラ)/特任教授/ファゴット
 岩間 丈正 准教授/フルート
 益田 善太 専任講師/フルート
 泉 真由 講師/フルート
 中村 明子 講師/フルート
 松岡 裕雅 特任准教授/オーボエ
 磯部 周平 特任教授/クラリネット
 須永 真純 講師/クラリネット
 松尾 賢一郎 講師/クラリネット
 馬込 勇 講師/ファゴット
 佐々木 雄二 特任教授/サクソフォン
 加藤 里志 講師/サクソフォン
 平野 公崇 講師/サクソフォン
 澤 敦 特任准教授/ホルン
 岸上 穰 講師/ホルン
 加古 勉 講師/トランペット
 笠原 日向 講師/トランペット
 小原 裕樹 講師/トランペット
 吉川 武典 特任准教授/トロンボーン
 大塚 哲也 講師/テューバ
 齋藤 充 講師/ユーフォニアム
 庄司 恵子 講師/ユーフォニアム
 天満 敦子 特任教授/ヴァイオリン
 清水 高師 特任教授/ヴァイオリン
 坂本 瑠美 講師/ヴァイオリン
 村越 麻希子 講師/ヴァイオリン
 佐々木 真史 講師/ヴィオラ
 藤森 亮一 特任教授/チェロ
 香月 圭佑 講師/チェロ
 菅原 政彦 講師/コントラバス
 田中 洪至 講師/コントラバス
 宮原 真弓 講師/ハープ
 河野 玲子 特任准教授/打楽器
 久一 忠之 講師/打楽器
 渡辺 由美子 講師/打楽器

音楽創造専攻

荻久保 和明 特任教授
 井上 淳司 特任准教授
 難波 研 講師

音楽療法専攻

木下 容子 チームリーダー/准教授
 馬場 存 特任教授
 平田 紀子 准教授
 高畑 敦子 講師
 二俣 泉 講師

教職実践専攻

粕谷 宏美 主任/特任教授
 大熊 信彦 特任教授
 三室戸 元光 准教授
 石橋 裕 特任准教授
 五十嵐 由和 講師
 宇根 優子 講師
 蝦 真理子 講師
 小野瀬 照夫 講師
 小梨 貴弘 講師
 明官 茂 講師
 山崎 正彦 講師

パフォーマンス総合芸術文化専攻

城之内 ミサ 主任/特任教授
 松浦 晃一郎 客員教授
 粕谷 麻里乃 准教授
 林 信子 講師
 船本 英雄 講師
 Miiya 講師
 渡辺 和彦 講師
 阿部 雅士 講師
 黒澤 慶子 講師
 篠原 竜一 講師
 川羽田 晶 講師
 うちやえ ゆか 講師
 仁科 薫理 講師
 伊崎 充則 講師
 HIRO 講師
 ひかる 一平 講師
 海老塚 純一 講師
 佐藤 よりこ 講師
 阿部 あき子 講師
 伊秩 弘将 講師
 高橋 達也 講師
 吉田 照美 講師
 名郷根 雅史 講師
 福原 慶臣 講師
 福井 謙二 講師
 森川 英展 講師
 松島 明宏 講師
 染谷 智 講師
 木河 淳 講師
 河野 賢一郎 講師
 森田 順平 講師
 巡田 忠彦 講師

科目担当

遠山 菜穂美 一般楽理主任/教授/音楽文化論
 大友 直人 特任教授/オーケストラ(指揮)
 高橋 幸雄 特任教授/ドイツ語
 林 千尋 特任教授/ウィーンアカデミー
 I.K.Lenx 准教授/ドイツ語圏異文化コミュニケーション
 林 敏子 特任准教授/ウィーンアカデミー
 小林 恵子 特任准教授/ウインドオーケストラ(指揮)
 周 亜芸 特任講師/日本語・日本事情
 伊藤 翔 講師/オーケストラ(指揮)
 海野 幹雄 講師/オーケストラ(チェロ)
 十川 稔 講師/オペラ研究(演出)
 宮松 重紀 講師/オペラ研究(指揮)
 今枝 昌浩 講師/日本国憲法と生活
 糸原 恒久 講師/哲学
 山下 暁子 講師/文化芸術論
 徳富 政樹 講師/現代の心理学[発達心理を含む]
 湯浅 恭子 講師/コンピューター演習
 荒木 洋育 講師/ウィーンの社会と文化
 江向 真理子 講師/スポーツ文化論
 増淵 千幸 講師/英語
 Hugo Lavalée 講師/英語圏異文化コミュニケーション
 M.Vergolani 講師/イタリア語
 白石 茂浩 講師/和声学
 横山 裕美子 講師/和声学
 新井 雅之 講師/対位法
 伊藤 制子 講師/楽式論
 田村 治美 講師/楽式論
 鈴木 良枝 講師/民族音楽学
 黒川 真理恵 講師/日本音楽史概説
 加茂下 裕 講師/ソルフェージュ
 櫻田 素子 講師/アジア音楽文化論
 田中 梢 講師/ピアノアンサンブル
 梶山 希代 講師/チェンバロ研究
 高島 理佐 講師/オペラ研究(伴奏)
 岩澤 直子 講師/臨床心理
 鴨田 友梨香 特任講師/レッスンマネジメント
 佐々木 和佳 講師/健康と音楽
 仁科 薫理 講師/シンギングポップス
 峰村 知子 講師/アンサンブル(電子オルガン)
 福原 亜希 講師/リトミック
 藤原 優里 講師/リトミック
 渡辺 恵 講師/身体表現演習
 上山 典子 講師/演奏表現研究

卒業生からのメッセージ

Messages from Graduates



胸の奥に大きな目標を抱き、素晴らしい将来へ向かってください

テノール歌手
石 倚 潔 さん [2006年卒業 / 声楽専攻]

私は歌うことが大好きで、子どもの頃は合唱団に入っていました。14歳の頃、世界三大テノール歌手のCDや映像に触れ、声楽を本格的に学びたいと思い勉強を始めました。どんなに高い声を出しても、リズムや音楽的な表現力、音楽や文化の教養、言語の理解など、歌の周辺にあるたくさんのことを勉強しなければ高いレベルに到達できません。東邦ではそのことが一番大切だということを知りました。テクニックはもちろん重要ですが、歌にとって大切なのは人の心を動かすこと。心の奥の目標は高く、普段は自分のやるべきことをきちんとやって、良い将来に向かって進んでください。

1982年中国上海生まれ。2006年東邦音楽大学を首席で卒業、同大学院特別研修生として選ばれ、オーストリアに留学。2009年東邦音楽大学大学院修了。声楽を山崎明美、ペーター・シュメルツァー、レジーナ・レズニク、アルベルト・ゼツダ等の各氏に師事。これまでにフェルッチョ・タリアヴィーニ国際声楽コンクール、トティ・ダル・モンテ国際声楽コンクール、マリア・カニリア国際声楽コンクール他数々の国際声楽コンクールで優勝。現在、中国湖南師範大学音楽学院教授・副院長、中国音楽学院特任教授、香港中文大学(深圳)音楽学院兼任教授、歌劇及び声楽学術主任、武漢音楽学院、西安音楽学院、瀋陽音楽学院等多数音楽学院客員教授、東邦音楽大学特任教授。

大学時代の忙しくも充実した日々が、実践力に結びついた

セントラル愛知交響楽団トロンボーン奏者
三 浦 葉 月 さん [2018年卒業 / 管弦打楽器専攻(トロンボーン)]

中学生のころ、トロンボーン奏者である吉川武典先生のリサイタルを聴いて感動した私は、先生が教鞭をとられている東邦音楽大学に入学しました。大学では、レッスンや試験に加え、オーケストラなどの授業で演奏する曲の練習、さらにトロンボーン科では毎月行われるおさらい会のための準備をする必要もありました。大変な日々でしたが、計画を立てて練習する必要性を理解し、実践力がついたと思います。そんな毎日の中で、私はオーケストラの素晴らしいことに魅了され、プロオーケストラの団員になるという目標ができました。現在、セントラル愛知交響楽団の団員として活動しておりますが、クラシックだけでなく有名アーティストの方との共演の際に、ポップスやビッグバンドなどのジャンルの違う曲を演奏することもあり、曲によってさまざまな技術や対応力を求められます。プロとなった今でも、一から勉強して自分のものにするまでは大変ですが、お客様から拍手をいただいたり、共演者と喜びを分かち合えた時には、心からやりがいを感じます。大学時代、音楽に向き合った日々は、社会に出た今、実践力や忍耐力に結びついていると感じています。



Haduki Mura

音楽は誰にでも身近な存在であり、自分を救う武器です

モデル・アーティスト
愛 菜 さん [2022年卒業 / パフォーマンス総合芸術文化専攻]

私はパフォーマンス総合芸術文化専攻で、音楽を含む全てのエンタメのステージ作りについて学びました。業界専門分野で活躍中の先生方に貴重なお話をさせていただき授業など、表現者として、制作スタッフとして、両方の知識と経験を積んだことが、今実際の現場で役立っています。特に、恩師である城之内ミサ先生には、POPSの作曲レッスンから様々な課題への取り組みに至るまで親身に寄り添っていただき、多くの経験をさせていただきました。卒業した今もお世話になっています。現在フリーで芸能活動を続けながらオリジナルアパレルブランドをプロデュースしていますが、特に芸能活動における音楽の分野において大学で学んだことを活かすチャンスが多くあります。音楽はやはり、どんな人の心も動かすとても身近なものです。私が深く勉強してきたその「身近なもの」は、どんな仕事の現場でも自分を救う存在になったり、誰かの手助けができたり、人に寄り添うことができる武器になっていると感じています。



Mana



実際の現場を体験することが、夢を現実にしていく自信となる

教員
川 端 ま ひ ろ さ ん [2023年卒業 / 教職実践専攻]

私はこの春から教員になります。小学生のころに先生という仕事に憧れ、中学生の時に子どもたちと真剣に向き合ってください先生方に恵まれたことで思いは一層強くなり、夢に向かって努力を始めました。東邦音楽大学の「教職実践専攻」は、その夢を現実にする最適な専攻です。講義でももちろん学びはありましたが、実際に小学校や中学校の現場へ行く「教職インターンシップ」を大学生のうちに経験できたことは、教員を目指す中で大きな自信になりました。実際に関わることによってそれぞれの子どもにどういった言葉がけが合っているのか、どんな振る舞いをするべきか学ぶことができました。人前で演奏する機会として、東邦ミュージックフェスティバルではピアノアンサンブルに挑戦しました。友人や後輩と一緒に音楽を作り上げていく楽しさを知ることができた思い出となりました。音楽を通して培った「忍耐力」はどんな職業でも強みになると思います。児童・生徒に音楽の楽しさを伝えることができる先生を目指して、これからも日々勉強していきたいです。

ここで学んだ「無限の可能性」は、何事にも通じます

放映新社 声優・タレント
結 木 ゆ な さん [2018年卒業 / コンポーザーアーティスト専攻*]
※現シンガーソングライター・アーティスト専攻

タレントとしての活動はシビアで、どんな状況にも対応できる柔軟性が求められます。目標に向かって努力を重ねる日々ですが、東邦音楽短期大学で知った「ステップアップする感覚」が困難に挑むモチベーションになっています。城之内先生のご指導のもと、高みを目指す向上心を持って作詞作曲を勉強できたこと、毎日のように練習室にこもって曲を書き、仲間と切磋琢磨しながら成長できたことは、今振り返っても刺激的で贅沢な思い出です。現在は音楽以外の表現も行っていますが、この学校で学んだ「音楽の無限の可能性」は何事にも通じます。



Yuna Yuk

「音楽を作り上げる楽しさ」を子どもたちに伝えたい

ピアノ / 音楽教諭 (佐久幼稚園 勤務)
齋 藤 亜 美 さん [2019年卒業 / 器楽専攻 / ピアノ指導者コース]

小さい頃から教えることに興味があり、ピアノの先生を志して入学しました。キャリア支援センターのサポートもあってその夢が叶い、現在は幼稚園に勤務して園内のピアノ教室で講師をしながら、園児に対しても歌や鍵盤ハーモニカの指導を行っています。どうしたら音楽に興味を持ってもらえるのかと日々研究中ですが、「ピアノ指導法」や「リトミック」を履修してきたおかげで子どもたちのかかわり方を的確にイメージできている気がします。学生時代に体験した「みんなで音楽をつくり上げる楽しさや喜び」を、子どもたちにもたくさん感じさせてあげたいです。



Ami Saito



Naoto Otomo

大友 直人 指揮者

聴覚や視覚はもちろん、それ以外の感覚もフル活用してアンサンブルをしていく

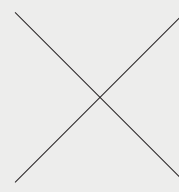
大友 私は、音楽大学オーケストラフェスティバルで、2018年にサン＝サーンスの交響曲第3番を、2021年にはチャイコフスキーの交響曲第5番を東邦音楽大学のオーケストラで振らせていただきました。

浅野 大友先生には2023年度から特任教授として、オーケストラの授業も指導していただいております。

大友 実は、私は教えることに関して、ほとんど経験がありませんでした。ただし、「オーケストラで音を奏でる」ということに関してははずいぶん長いことやっております。オーケストラというのは本当に素晴らしい演奏形態だと思っておりますが、それは同時に個人個人の集まりでもあるわけです。オーケストラの演奏は、一人ひとりが全体の演奏にどのくらい寄与できるかにかかっています。だから個々の責任がとても大きいし、そのためになければならないこともたくさんあり、これには終わりがありません。世界の超一流の楽団でも、少しでも豊かな音楽を生み出すために全員が努力しているわけです。特に大学のオーケストラでは技量の差や経験の差などが大きいので、それをどう乗り越えて、どういうモチベーションを持って全員で音楽を奏でるか。そこが難しいところでもあり、1人や2人の演奏では経験することができない醍醐味もあります。みんなモチベーションを高く持って共同することによって、自分たちの音が変わったり、一歩前進したりすることをぜひ経験してほしいです。

浅野 大友先生の考えるオーケストラの面白さと難しさはどのようなところでしょうか。

大友 まずアンサンブルをするということ自体が楽しいことであり、難しいことでもあります。考えてみてください。大編成のオーケストラになると、ヴァイオリンからテューバや打楽器まで十数メートルも離れている状態ですが、十六分音符や三十二分音符を一糸乱れないで演奏するわけです。もちろん指揮者やコンサートマスターの合図はありますが、ある意味「気合」で合わせるわけです。よく考えると超人的ですよ(笑)。聴覚や視覚はもちろん、それ以外の感覚もフル活用してアンサンブルをしていくのです。これはメトロノームに合わせたからといってできることではなく、それを超えたところでアンサンブルするわけで、実際にできることが不思議に感じることもあるし、そこが最大の面白さと言えるのではないのでしょうか。しかも、オーケストラからどんな音が出てくるのか、どんなアンサンブルになるかは、その現場によっても、曲によっても、その日その日でも違ってきます。指揮者としてはそういうことにフレキシブルに対応して、演奏に関わる人が少しでも充実した時間が過ごせるようにしたいと考えています。



Kouei Asano

浅野 高瑛 演奏部長(オーケストラ・ウインドオーケストラ)/特任教授/ファゴット

音楽大学は「音楽が好き」「もっと音楽を勉強したい」という気持ちを前に進められる場所

浅野 私は高校の吹奏楽部を指導する機会もありますが、例えばチューナーを楽器に付けて合奏中も常にチェックしているとか、終始メトロノームの電子音に合わせて合奏するような様子を見るにつけ、生徒たちが自ら能動的に動いているのではなく、いろいろなコントロール下に置かれてやらされているだけになっているのではないかと感じることがあります。そういう子が音楽大学に来てすべてのコントロールから解放されたとき、糸の切れた凧のようになってしまう危険性さえ感じることがあります。

大友 僕は「チューナーを使って」とはよく言います。オーケストラではハーモニーを作る感覚は絶対に必要です。ですが自分の感覚を全面的に信用すると、すごく危険なこともあります。オリンピックに出るような一流のアスリートでも自分のフォームを映像で確認するというをしているのに、われわれが自分のリズム感や音感を絶対だと信じて疑わない。これは恐ろしい話だと思いませんか。自信を持つということはとても大事なことで、自信を失うとできなくなることも多いです。しかし、チューナーだったりメトロノームだったりを使って客観的にチェックすることもまた必要。問題はその使い方ですね。

浅野 まさに武器にもなるし、凶器にもなる。頼りすぎてしまい、常にチューナーを見ないと演奏できなくなってしまうようでは困るわけで、その辺り今の学生を正しい方向に導いていかないといけないと思っています。もちろん私は吹奏楽を否定するつもりはありませんし、この50年の間日本の音楽界は吹奏楽のおかげで非常に進歩し、優秀な管打楽器奏者がたくさん出てきています。彼らは音大に入ってから自分自身でいろいろなことを工夫し、新しい考えを全部吸収して成長したわけです。そういうことができる場でありたいですね。

大友 まったく同感です。

浅野 高校の吹奏楽部には、キラキラ輝く子たちがたくさんいます。そういう人たちは吹奏楽を通して何かを感じ取り、「もっと音楽を勉強したい」と思うかもしれません。しかし「音楽で食べて行けるのか」などと言われて諦めてしまうということもよくあることです。そういう意味でも、大学時代というのは一生の礎となるような大事な時間ですから、音楽大学がその責任を負わなければならない。そう考えたときに、少人数制できめ細かく学生1人ひとりに向き合っていける東邦音楽大学は、それが可能な場所なのではないかと思っています。若い人たちはものすごいエネルギーを持っているのに、それを押さえこんでしまって外に出てこないことが多い。内部にあふれているマグマが噴出するきっかけを作ることまた、大学の音楽教育に必要なことです。音大を目指す学生もみんな「音楽が好





き」という強い気持ちから始まっているはずだし、それが学びの原動力になります。音楽大学は、そういう学生の背中を押してあげて、その気持ちを前に進めてあげられる場所であると思います。

大友 話はちょっと脱線しますが、映画音楽の作曲家として有名なエンニオ・モリコーネが2020年に亡くなり、『モリコーネ 映画が恋した音楽家』という彼のドキュメンタリー映画が公開されました。数えきれないほどの名曲を残しているモリコーネが作曲を学んだ期間は、ローマのサンタ・チェチーリア音楽院の数年間のみだったということがわかります。彼はお父さんに言われるがままトランペットを吹き、音楽学校に進むのですが、入ってから作曲の才能を認められて、ゴツフレド・ペトラッシという現代音楽の作曲家に師事し、現代音楽の作曲家になりました。その後商業音楽に手を染めることにためらいを持ちつつも、結局何十年も映画音楽の作曲家として活躍したわけです。その元になっているのが、サンタ・チェチーリア音楽院で真面目に勉強した数年間であるということ。私には実感しました。もちろん、音楽の勉強は卒業後も一生続くわけですが、その礎となる、大学で学ぶ時間は本当に大事です。

音楽をすること自体が「能動力」であり、その力が人間の持つ発信力となる

大友 そもそも人間の能力は、10代から20代前半くらいが一番伸びるのです。その時期は大学に通う時期とも重なっています。大学で与えられるものをどう自分のものにするかはその学生次第ですから、本学に入学したら、大学時代という貴重な時間を使って、最大限能動的に何から何まで吸収しようとしてほしいですね。

浅野 それはいわば「能動力」ですよ。自ら貪欲に大学や教員を利用したり活用したりして学んでいく力。今では、様々なことがスマホ1つで完結してしまうような世の中になっています。だから自ら動きを起こ

すという状況が少なくなっています。しかし音楽を演奏することに関しては、能動的になる必要があります。管楽器は息を吹き込まなければ音は出ないし、弦楽器は弓を動かさなければ演奏できない。当たり前な話ですが、そう考えると音楽をすること自体が「能動力」であり、その力が人間の持つ発信力となるのです。

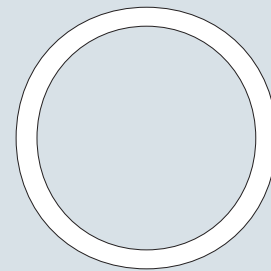
大友 世の中には、ときどき並外れた能力を持っている人が現れます。野球で言えば大谷翔平選手のような。でもそういう人であっても、結局やることは他の人と同じで、基本的な練習を地道に積み重ねているのです。むしろ、外に出てこない、裏での努力は相当なものだと思います。その意味で、人間が持っている能力に差はあっても別物ではなく、並外れて優秀な人たちは、他の人の何倍も努力しているはず。つまり、どんなに恵まれた環境にしようが、結局は本人次第。ただし音楽で言うと、無駄な練習や間違った練習をして回り道をしてしまうことはよくあります。そのために、先生にいいアドバイスをもらって、正しい方向に進んでいけることが重要になってくるのです。そして、自ら様々なことを吸収できる環境を選んで、先生との関係、友人との関係を密にすることで、大学時代にとても濃密な時間が過ごせるわけです。だからこそ、学生の皆さんには、自分の持っているポテンシャルは自分が思っているよりもはるかに大きいということを認識してほしい。「自分には才能がない」なんて思う必要はまったくなくて、貪欲に努力をし、前に進むモチベーションがあれば、そこには限りない可能性が広がっているのです。

浅野 そして、音楽大学で学生たちがそれに気づく手助けができるよう、われわれは努めなければならない。当然のことながら、学生は指導する教員を見本として学んでいくわけですから、指導する側の熱意も絶対に必要です。そして一人の学生に対し多くの教員がその熱意をもってコミュニケーションを取ることから生まれる信頼関係の中で、一人ひとりの「能動力」を引き出すことができる。それが本学の掲げる少人数制に基づく「One to One」教育だと私は思っています。

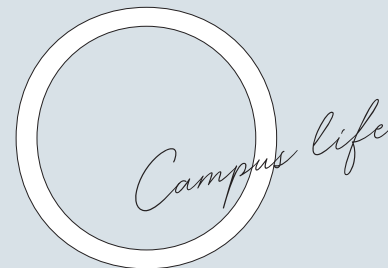
大友直人: 桐朋学園在学中に22才でNHK交響楽団を指揮してデビュー以来、日本の音楽界をリードし続けている日本を代表する指揮者のひとり。これまでに日本フィル正指揮者、大阪フィル専属指揮者、東京交響楽団常任指揮者、京都市交響楽団常任指揮者、群馬交響楽団音楽監督を歴任。現在東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督、高崎芸術劇場芸術監督。国外においてはロイヤルストックホルム管弦楽団、フランス国立ロレーヌ管弦楽団、オーケストラカンヌ、オーケストラスカナ、ブッチーニフェスティバルオーケストラ、ルーマニア国立放送交響楽団、インディアナポリス響、コロラド響等に度々招かれており、ハワイ響には旧ホノルル響時代から20年以上にわたり定期的に招かれている。またフィルハーモニア管弦楽団の日本ツアーの指揮者も務めた。また、東京文化会館の初代音楽監督として東京音楽コンクールの基盤を築いたほか、数々の自主制作の企画を成功に導いた。幅広いレパートリーでも知られ、その中でも日本を代表する邦人作曲家作品の初演やジェームス・マクミラン作品及びジョン・アダムのオペラ日本初演等は代表的に挙げられる。小澤征爾、森正、秋山和慶、尾高忠明、岡部守弘らに学ぶ。NHK交響楽団指揮研究員時代にはW.サヴァリッシュ、G.ヴァント、F.ライトナー、H.プロムシュテット、H.シュタインらに学び、タンゲルウッドミュージックセンターではL.パーンス タイン、A.プレヴィン、I.マルケヴィチからも指導を受けた。大阪芸術大学教授。京都市立芸術大学、洗足学園大学各客員教授。



T



H



キャンパスライフ

CAMPUS LIFE

同じ音楽でつながる仲間。
その仲間たちと出会う場所。
充実した学生生活をおくるための環境が
この学園にはあります。

TOHO College of Music
TOHO Junior College of Music
TOHO Graduate School of Music

TOHO LIFE

Campus life

専攻の枠を越えた交流が盛んなことも少人数制ならではの、仲間とともに演奏し、楽しみ、充実した毎日を送る素晴らしい環境がここにはあります。



緑豊かな景観を持つキャンパスと 附属校も併設する都市型キャンパス

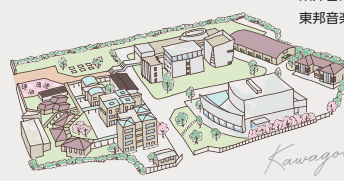
川越キャンパスと文京キャンパス、主にこの2つのキャンパスを中心とした学生生活を送ります。ここを拠点に多くの演奏会や舞台、地域に根ざした活動など、充実した東邦ライフがはじまります。



年間を通して多くの演奏会に出演。演奏経験を積むことができます。



2つのキャンパス



川越キャンパス
東邦音楽大学
東邦音楽大学附属東邦第二高等学校



文京キャンパス
東邦音楽大学大学院
東邦音楽短期大学
東邦音楽大学附属東邦高等学校
東邦音楽大学附属東邦中学校

※東邦音楽大学パフォーマンス総合芸術文化専攻は文京キャンパスとなります

大学生の1日

8:15	個人練習	個人練習室は、講義が始まる前から使用できます。朝の時間を有効に活用して練習に励みます。
9:00	講義	午前中は各90分で2コマ講義があります。水曜日は必修科目の「東邦スタンダード」が1限目にあります。
12:10	昼休み	昼休み。富士山も見る事ができる眺望のよいスカイレストランは友人との会話もはずみます。
12:40	レッスン・合奏	3限目は12:40からスタート、4限目は14:20から、5限目は16:00からスタートします。レッスンや合奏、演奏など、専攻の学びをより深める時間です。
17:30	個人練習・合奏など	学んだことをすぐに吸収するため、帰宅前にも個人や学生同士で練習をします。そういった練習環境があるのも東邦の魅力です。
19:00	帰宅	翌日の予習をしたり、体調を整えたり。演奏会に足を運ぶこともあります。



ドラマのロケでも使われる川越キャンパスは、いるだけでも気分があがります！



短大生の1日

8:15	個人練習	個人練習室は、講義が始まる前から使用できます。アクセスがよく通いやすい文京キャンパスだから、朝からしっかり練習時間が確保できます。
9:00	講義	午前中は各90分で2コマ講義があります。水曜日は必修科目の「東邦スタンダード」が1限目にあり、リトミックなど、短大ならではの授業もあります。
12:10	昼休み	昼休み。学生食堂では、栄養バランスのとれた美味しいランチが用意されています。
12:40	レッスン・合奏	3限目は12:40から、4限目は14:20から、5時限目は16:00からスタートします。理論の授業や、レッスン、合奏など、学びをより深める時間です。
17:30	個人練習・合奏など	学んだことをすぐに吸収するための練習環境が整っているので、帰宅前にも個人や学生同士で練習をすることができます。
19:00	帰宅	次の日のレッスンのための譜読みをしたり、レポートの課題に取り組んだりします。体調を整えることもとても大事ですね。



根本美優さん
東邦音楽大学
パフォーマンス総合芸術文化専攻
2020年入学
三輪田学園高等学校

声優・アーティストを目指し、養成所に通いながら東邦でエンターテインメントについて学んでいます。文京キャンパスにある専攻の教室にはほぼ必ずいつも誰か友達がいるので、音楽や将来の目標などをよく話しています。練習室も学校が閉まるまで毎日のように利用していて、家で過ごす時間より長くいるかも知れません。意識の高い学生が多く、本気で夢を叶えたいという土気が高まりました。



練習環境がしっかり整っているところも魅力です！

キャンパススケジュール

- 入学式/オリエンテーション
前学期授業・レッスン開始
健康診断
Konzertfach (演奏専攻) 演奏会
- 前学期授業・レッスン
- 音楽鑑賞教室
- 定期研究発表演奏会(ソロの部)
前学期授業・レッスン修了
前学期学科目まとめ
- 前学期実技試験
夏期休業
インターンシップ
- オリエンテーション
後学期授業・レッスン開始
川越市2音大クラシック・コンサート
- 東邦ミュージック・フェスティバル
卒業記念修学演奏旅行
- Konzertfach (演奏専攻) 演奏会
定期研究発表演奏会(ウインドオーケストラの部)
定期研究発表演奏会(合唱の部)
- 定期研究発表演奏会(オーケストラの部)
大学院1年生演奏会
音楽大学オーケストラ・フェスティバル
冬期休業
- 冬期休業
後学期授業・レッスン修了
後学期学科目まとめ
後学期実技試験
- 後学期実技試験
大学院修士課程学位審査修了演奏会
- 卒業代表演奏会
卒業証書・学位授与式
音楽大学フェスティバル・オーケストラ

Message



立道月乃さん
東邦音楽大学声楽専攻
2020年入学
東邦音楽大学附属東邦高等学校

私が大学の中で好きな場所は、練習室です。空き時間は練習していることが多く、時間があればすぐに音楽が始められる環境は、とても恵まれていると感じます。少人数制でアットホームな雰囲気はのびのびとして学びやすく、川越キャンパスの緑豊かな環境も音楽に対する感性を高めてくれます。共に音楽にあふれた楽しい学校生活を送りましょう！



CAMPUS MAP

川越キャンパス KAWAGOE Campus

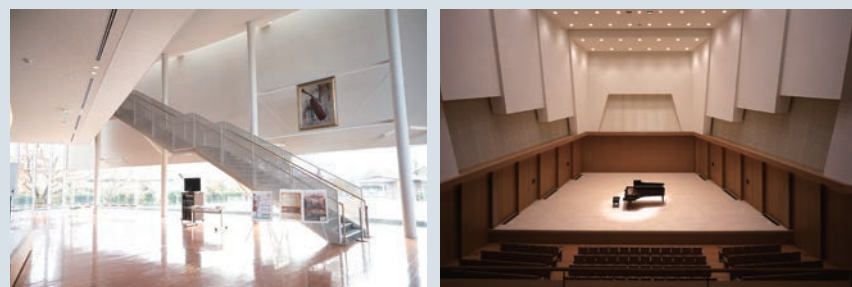
埼玉県川越市にある東邦音楽大学の拠点。
緑豊かなゆりのあるキャンパスは音楽に集中できる最適な空間です。



緑にかこまれた居心地のよいキャンパス
音楽が絶えず響き渡ります

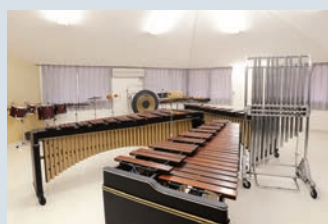
グランツァール(14号館)

本格的な音楽ホールで、クラシックをメインにさまざまな音楽教育に利用できます。多面に分割された天井と壁が素晴らしい音響効果を生む、華やかな雰囲気のあるホールです。川越市より「都市景観デザイン賞」、埼玉県より「彩の国景観賞」、そして第32回東京建築賞作品コンクール一般部門一類「優秀賞」を受賞しました。スタインウェイD型フルコンサートグランドピアノ2台設置。



管弦練習棟(15号館)

2階建て構造になっており、防音、冷暖房を完備した管弦練習棟です。アンサンブル室が2室、管弦練習室が20室あり、充実した練習を行うことができます。



打楽器棟(7号館)

レッスンにも使用する打楽器練習棟です。



講義室・レッスン室(9号館)

教員の研究室とグランドピアノを配備したレッスン室があります。スタインウェイB型ピアノ2台設置。



体育館兼演奏講堂

音響効果の高い設備・装備を完備した、演奏会にも利用できる体育館兼講堂です。

70周年記念館(16号館)

吹き抜けホールや大講義室を備えた最新設備を誇るモダンな校舎です。川越キャンパスのメイン校舎で大教室、中教室、各種スタジオなどが設置されています。



FLOOR GUIDE

4F	大教室 スカイレストラン スカイラウンジ		大教室(LH401) 大人数の授業を行う教室として使用し、自然光を取り入れることにより閉塞感を感じさせず、落ち着いて授業に集中できるように配慮されています。スタインウェイB型ピアノ1台設置。
3F	スタジオB 中教室 レッスン室 個人練習室		スタジオB 階段状の可動式客席を備え、教壇・黒板を設置しているため講義や講演会場としても使用することができます。座席を収容することで多目的に使えるスペースに変化します。スタインウェイC型ピアノ2台設置。
2F	中教室 レッスン室 個人練習室		個人練習室 各部屋にグランドピアノを1台ずつ配備し(1室は2台配備)、学生の個人練習のために使用しています。
1F	音楽療法 セッションルーム スタジオA 個人練習室		スタジオA オーケストラ、ウインドオーケストラ、合唱などの授業および試験会場として使用します。優れた音響効果が得られるため、室内楽やソロコンサート会場としても利用できます。スタインウェイB型、C型ピアノ各1台設置。
			音楽療法セッションルーム 音楽療法のセッションを実施する教室で、ビデオカメラ、DVDレコーダー、観察室などの最新設備が充実しています。

東邦音楽学校 三室戸記念館

アンティークな外観の建物の中は冷暖房が完備され、小演奏会のできるホールと史料室があります。なお、この記念校舎は「川越景観百選」に選ばれ、また「川越市重要建築物」としても指定を受けました。



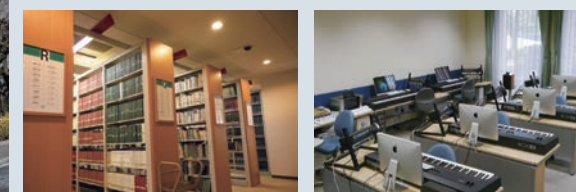
事務本部棟(13号館)

教務・庶務のある本部棟。2階構造のモダンな建物で1階に事務室 講師室があり、2階には応接室や会議室、学長室など大学の事務本部機能があります。



図書館棟(12号館)

楽譜約22,000冊、音楽専門書約10,000冊、その他CD、DVD、一般書籍を所蔵。1階はメインカウンターと利用者の質問や文献検索の手助けをするレファレンスルームがあります。また、最新コンピュータを導入したコンピュータ室、2階・3階は開架書庫になっており、勉強会や読書会が行えるグループ学習室・視聴覚室があります。



川越キャンパスマップ



CAMPUS MAP

文京キャンパス

BUNKYO Campus

東京都文京区にある都市型キャンパス。大学院や附属校も併設します。都心にありながら、学びに適した落ち着いた空間となっています。



シンボルでもある吹き抜けのエントランスは多くの仲間の交流の場です

ホワイエ (2号館)

ヨーロッパスタイルの洗練された吹き抜けのエントランスロビー。文京キャンパスの顔でもあり、「ホワイエコンサート」と呼ばれる室内楽演奏会の舞台にもなります。



創立50周年記念館 (6号館)

地下1階・地上5階建ての記念館。1・2階を合わせて吹き抜けにし天井を高くしたコンサートホール。地下1階がロビーと控室。中3階が録音調整室。3階がP.M.E. 講義室。4階が記念史料室。5階が会議室。スタインウェイD型フルコンサートグランドピアノ1台設置。



P.M.E. 講義室

YAMAHA STAGEA が11台完備され、モニターを通して先生のパネルや鍵盤、手の動きが見られます。



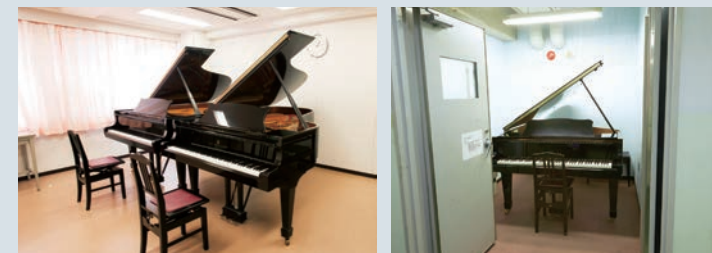
外観

1階におしゃれなエントランスホールとレストラン、地下1階にレッスン室、地上2・3階に図書館、4階に教員研究室、5階から8階に講義室等を備えた校舎です。



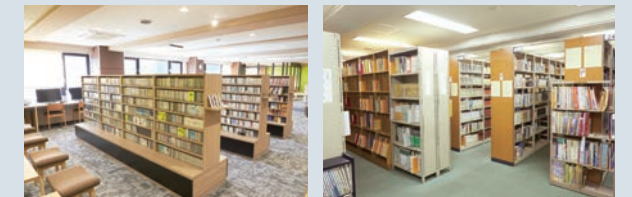
レッスン室・個人練習室

冷暖房完備のレッスン室には、グランドピアノを2台設置しています。個人練習室にはグランドピアノまたはアップライトピアノが設置されています。



カレッジレストラン

メニューのバリエーション豊富な学生食堂。学生・生徒たちの憩いのスペースとしても活用されています。



文京図書館 [Music Commons]

2階は7500冊の音楽書に加え、歴史・美術・文学を中心とする一般書籍を含め25,000冊を所蔵。楽譜は20,000冊余りを所蔵し、自由に手にとってみる事ができます。3階はグループワークエリアや、集中して静かに学習するためのクワイエット・シートなど、さまざまな学習スタイルが可能な空間です。ポータブル式の視聴機を備え、6000タイトル以上のCDや500タイトル以上のDVDを全席で視聴できます。



大教室

合唱や、アンサンブルの練習等に使用する大教室。

文京キャンスマップ



TOHO ウィーンキャンパス

TOHO Wien Campus

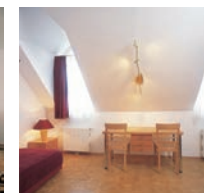
音楽の都、オーストリア・ウィーンにある本学の研修施設。周囲には音楽のみならず、多く芸術が溢れ、刺激的な環境の中で学ぶことができます。



講義室兼サロン



ピアノレッスン室



宿泊室 (ツインルーム)



小ホール兼レッスン室



学生サポート Student Support

■ 学生生活

学生の皆さんが安心して大学生活を送れるよう、一人ひとりを支える仕組み・機関を設置して親身に対応しています。

● 入学前のサポート学習支援 〔課題提示〕	入学前に行っておくことが望ましい学習準備への具体的な『課題提示』を、入学者全員を対象に実施しています。
● 川越・文京事務室 （庶務・教務学生担当）	学生に必要な諸手続きや履修上の相談、練習室の貸し出しなどを行っています。
● 地域連携・演奏センター	地元地域との共同イベント開催や本学主催の定期演奏会などをサポートしています。
● 障害学生生徒支援センター （スマイルデスク）	障害のある学生生徒が、その障害の状態・特性や教育的ニーズなどに応じて教育が受けられるよう支援します。
● 留学生センター	中国語を話せる職員を置き、受験から入学にともなう手続き、履修・生活相談まで幅広くサポートしています。また外国人授業料減免制度も設けています。
● キャリア支援センター	就職活動全般を支援。専任職員との個人面談も実施しています（P72-73参照）。
● カウンセラー室	学生生活の悩みや問題に専門カウンセラーが対応します。
● 学生相談	学生個人のあらゆる問題への助言と指導を教員が行います。
● 卒業後のサポート	各種講座、邦友会（同窓会）、卒業生情報センター、学園広報誌『Echole（エコール）』送付、キャリア支援など。

■ 学費

2023年度入学生の学費等納入金です。2024年度入学生の学費等納入金は改定する場合がありますので、あらかじめご了承ください。詳しくは別冊の学生募集要項をご参照ください。

■ 大学 【ピアノ専攻・声楽専攻・管弦打楽器専攻・音楽創造専攻・音楽療法専攻・Konzertfach（演奏専攻）・教職実践専攻】				
	入学金	授業料	施設拡充費	合計
入学初年度（年額）	250,000円	1,400,000円	400,000円	2,050,000円
次年度以降（年額）	-	1,480,000円	500,000円	1,980,000円

※Konzertfach（演奏専攻）の学生は、Konzertfach（演奏専攻）課程費として各学年（1～4年）3 0万円が別途必要になります。

※教職実践専攻の学生は、教職実践専攻課程費として各学年（1～4年）12万円が別途必要になります。※専攻や履修科目によっては上記以外に別途実習費の納入を要します。

※ウィーン海外研修に要する費用（授業・レッスン費用、燃油サーチャージを除く渡航費用）等は、授業料に含まれています。

※教職実践専攻以外の専攻で「教職課程」の履修希望者は別途納入を要します。※その他、卒業関連諸費積立金等の納入を要します。

■ 大学 【パフォーマンス総合芸術文化専攻】				
	入学金	授業料	施設拡充費	合計
入学初年度（年額）	250,000円	1,100,000円	350,000円	1,700,000円
次年度以降（年額）	-	1,130,000円	400,000円	1,530,000円

※上記以外に、特別講座費（学外施設等実習費含む）および卒業関連諸費積立金等の納入を要します。※パフォーマンス総合芸術文化専攻は「ウィーン海外研修」を実施しません。

※パフォーマンス総合芸術文化専攻は「教職課程」の履修はできません。

■ 短期大学

	入学金	授業料	施設拡充費	合計
入学初年度（年額）	200,000円	1,000,000円	300,000円	1,500,000円
次年度以降（年額）	-	1,000,000円	300,000円	1,300,000円

※上記以外に、卒業関連諸費積立金等の納入を要します。※シンガーソングライター・アーティスト専攻の学生は、外部実習費が別途必要になります。

※選択科目「ウィーンアカデミー」（ウィーン海外研修）の履修希望者は、ウィーン研修関連費用が別途必要になります。※選択科目「P.M.E.Ⅰ」「P.M.E.Ⅱ」の履修希望者は、課程費が別途必要になります。

※特別社会人として入学された方には授業料軽減（減免）制度があります。※社会人の方が修業年限を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修できる長期履修生制度を設けています。

■ 免許・資格

資格を取得するための講座や科目を充実し、学生のみなさんが社会に出て役立つ資格の取得をバックアップしています。

大 学	中学校教諭一種免許状（音楽）	高等学校教諭一種免許状（音楽）	音楽療法士	社会福祉主事（任用）
	ピアノ専攻、声楽専攻、管弦打楽器専攻、音楽創造専攻、音楽療法専攻、Konzertfach（演奏専攻）、教職実践専攻で基礎教育科目、共通専門教育科目および音楽専門教育科目に加え、教職に関する科目の単位を修得し卒業した者は、中学校・高校の音楽教員免許状を取得できます。取得者には、小学校専科、特別支援学校の教員への道も開かれます。		音楽療法専攻の卒業生で日本音楽療法学会の所定の試験に合格した者は、認定音楽療法士の資格を取得できます。	各地方自治体の福祉事務所などで働く場合に必要とされる資格です。各地方自治体の福祉事務所などで働く場合に必要とされる資格です。「現代の心理学」、「法と経済」、「社会福祉概論」を履修し、単位を取得することで取得できる資格です。

※東京未来大学通信教育課程との連携により、小学校教諭普通免許状および幼稚園教諭普通免許状を取得できる制度もあります。

教職実践専攻の学生および教職課程履修者で提携履修を許可された学生は、この制度を利用して免許状を取得することができます。

本学では通信教育課程を開設していないため、東京未来大学で受ける授業やインターネットを使った授業を通して、東京未来大学の科目履修生として教職課程を履修することになります（要課程履修費）。

短 期 大 学	リトミックインストラクター	社会福祉主事（任用）
	リズムや歌に合わせた動きや遊びを通して、心身の調和を図り、豊かな感性と想像力を育む、主に子どもを対象にした情操教育の手法です。リトミックを履修し、規定の試験に合格することで取得できる本学独自の認定資格です。	各地方自治体の福祉事務所などで働く場合に必要とされる資格です。「現代の心理学」、「法と経済」、「社会福祉概論」を履修し、単位を取得することで取得できる資格です。

■ 奨学金制度

東邦音楽大学 【2～4年次生対象】	東邦音楽短期大学 【2年次生対象】
● 東邦音楽大学奨学金（公募）	● 東邦音楽短期大学奨学金（公募）
給付額 年額40万円（1年間） / 若干名	給付額 年額28万円（1年間） / 若干名
①給与所得世帯年収841万円以下。給与所得世帯以外年収380万円以下。 ②前年度GPA概ね3.0以上。進級条件充足。前年度履修科目出席率80％以上。	①給与所得世帯年収841万円以下。給与所得世帯以外年収380万円以下。 ②前年度GPA概ね3.0以上。進級条件充足。前年度履修科目出席率80％以上
※Konzertfach（演奏専攻）、留学生、〔特定楽器〕特別特待生やその他特待生、特別社会人入学者、長期履修生、高等教育の修学支援新制度受給者は対象外となります。	※留学生、特別社会人入学者、長期履修生、高等教育の修学支援新制度受給者は対象外となります。
● 東邦令和特別奨学金（指名）	● 東邦令和特別奨学金（指名）
給付額 年額24万円（1年間） / 若干名	給付額 年額24万円（1年間） / 若干名
GPAおよび専攻実技の成績、人物評価を総合的に判断し選考します。進級条件充足。前年度履修科目出席率80％以上。	GPAおよび専攻実技の成績、人物評価を総合的に判断し選考します。進級条件充足。前年度履修科目出席率80％以上。
※留学生、〔特定楽器〕特待生やその他特待生、特別社会人入学者、長期履修生、高等教育の修学支援新制度受給者は対象外となります	※留学生、特別社会人入学者、長期履修生、高等教育の修学支援新制度受給者は対象外となります。

■ 特待生制度

東邦音楽大学、東邦音楽短期大学では専攻実技の成績が優秀な者に勉学を奨励するとともに学修意欲の高揚を図ることを目的に特待生制度を設けています。詳細は本学ウェブサイト、または入学者選抜学生募集要項をご参照ください。

■ 指導者推薦型選抜（特定楽器）における入学金・授業料の減免〔大学〕

指導者推薦型選抜〔特定楽器〕に合格した者は、入学金を10万円、授業料を年額30万円（4年間で最大120万円）を減免します。なお、各学年にて指導者推薦型選抜〔特定楽器〕特待生の審査をします。

対象楽器：オーボエ、ファゴット、ユーフォニアム、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

■ 卒業生推薦型選抜における選抜検定料の免除〔大学・短大〕

東邦音楽大学・同大学院・東邦音楽短期大学の登録卒業生の推薦により、卒業生推薦型選抜を受験する者は「選抜検定料」を免除します。

※登録卒業生とは、東邦音楽大学・同大学院・東邦音楽短期大学を卒業または修了し、卒業生情報センターへの事前登録をした方。

※「推薦書」は、登録後に発行される登録番号、その他必要事項を推薦者本人がご記入、ご捺印のうえ、出願者（受験生）へお渡しください。

※すでに登録されている方は、必ず出願前に卒業生情報センターへ電話にてご連絡ください。

※お問い合わせ：卒業生情報センター TEL03-3946-9674（月・水・金 10:00～16:00）

■ 就学支援制度

●アパート等の入居に要する経費に対する補助

対象：〔大学〕1～4年次生 〔短大〕1～2年次生

補助額 年額12万円給付

本学に入学する者で、下記に掲げる要件のすべてに該当する場合は、アパート等の賃貸料の一部を補助します。

- 1都6県（東京都・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・神奈川県）以外の居住地からの入学者。
- 本学に入学するために、アパート・マンション等を借用して入居する者。
- 補助を申請する者。

※補助金は入学後に支給いたします。

■ その他の学外支援制度

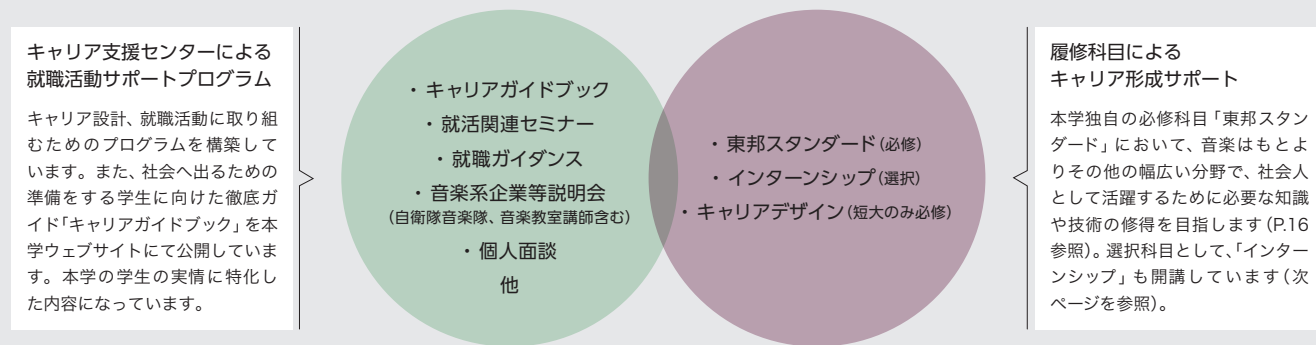
高等教育の修学支援新制度【本学はこの支援制度の対象機関に指定されております】
福島育英奨学金／平和中島財団／ロータリー米山記念奨学金／日本学生支援機構奨学金

就職は自分の目標や夢を実現するための第一歩。

みなさんが自信を持って社会に羽ばたいていけるよう多様なサポートを行っています。

■ キャリア支援の2本柱

本学のキャリア教育では、学生一人ひとりが自らの生き方を主体的に考え、学生生活を通じて仕事観や職業に関する知識・技能を身につけ、自分の個性を理解したうえで進路を選択できる能力を育みます。その実現のために、2本の柱を設けています。



■ 就職サポートプログラムの年間計画

	1年次	2年次	3年次	4年次
4月～5月	オリエンテーション			
	進路希望調査・職務適正検査			
6月	インターンシップ募集			100社求人情報紹介フェア
	進路カード登録			
7月	自衛隊音楽隊採用説明会			
	マナーセミナー (「インターンシップ」履修者必須。履修者以外も受講可)			
	インターンシップ直前セミナー (「インターンシップ」履修者必須)			
8月	インターンシップ実習 (2週間) (「インターンシップ」履修者)			
9月	就活スタートセミナー			「ハローワーク求人」個別面談会
10月	100社求人情報紹介フェア			
	インターンシップ体験発表会 (「インターンシップ」履修者必須)			
11月	<p>●就職ガイダンス (10月～12月にかけ5～6回開催)</p> <p>[テーマ例]</p> <p>①就活とは②自己分析③企業研修④応募書類⑤筆記試験対策⑥面談対策など</p>			
12月				
1月				
2月	進路調査提出			
3月				

※短期大学においては、上記のサポートプログラムを2年間で計画的に実施しています。

■ インターンシップ

選択科目「インターンシップ」履修者は、企業や団体などで就業体験をし、仕事に対する興味や関心を高め、将来のビジョンを明確にすることへとつなげていきます。これまでの実績として、楽器店、音楽出版、ホール運営、介護福祉、行政などで実習を行っています。

5月	募集&登録	「職種」「業種」「特徴」などから自分の興味がある企業を見つけ登録します。
7月	マナーセミナー / 直前セミナー	受け入れ先企業とその業界への理解を深めます。また、ビジネスの基本を学び、就業に備えます。
8月	インターンシップ実習	夏休みの2週間を利用して実施。学生はインターンシップ先企業などに通い、さまざまな実務の経験を積みます。
11月	インターンシップ体験発表会	就業体験の成果を発表します。どんな体験を経て何を学んだか振り返ることで、就業への理解が深まります。



■ 主な就職先

大学・短期大学			
■ 学校教育・保育 各地区小・中・高等学校 川越白ゆり幼稚園 明和幼稚園 アイ保育園 ちくみ幼稚園 こどもの森 けやの森学園 友愛学園	宮地楽器 下倉楽器 伊藤楽器 オトワ楽器 アルプス楽器 Clioピアノ教室 稲山音楽教室 ヤマハミュージックジャパン ヤマハミュージックリテイリング アトリエ・ド・ソレイユ オトノアジト K-BALLET IZENE ステージ フォルミカ 東京ハッスルコピー	■ 公務員 陸・海・空自衛隊 (音楽隊) 警視庁 山口県警察 (音楽隊)	フォルクスワーゲンジャパン オリエンタルランド エバー航空 新潟テレビ21 NPO東京キャットガーデン 湖山医療福祉「百葉の会」 医療生協さいたま共同組合 ランヴェルネス 福祉楽団 ヒューマンテック 美原記念病院 NAT音楽療法事務所 茶の花福祉会 小田急サザンタワー 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 永沢総合法律事務所 他
■ 音楽教室講師/音楽関連企業 ヤマハ音楽振興会 河合楽器製作所 島村楽器 山野楽器 タニタ楽器 エークラスミュージック	■ 一般企業 三井住友銀行 日本郵便 富士ロジテック カトープレジャーグループ シャノアール コジマ トライグループ マックスマラー・ジャパン メガネトップ サニクリン東京 スワロフスキージャパン		

キャリア支援センター 担当者からのメッセージ 学生自身でキャリア設計ができるよう、さまざまな角度から未来を支えます。

本学は音楽を専門に学ぶ大学ですが、卒業後は音楽に限らず幅広い分野から進路を選ぶ学生もいます。そのため当センターは業種を問わず、学生個々の希望や特長に応じ、キャリア形成を支援しています。本学のキャリア支援には、主に2つの柱があります。1つ目は「就職活動サポートプログラム」で、「企業研究」「応募書類・面接対策」などの就職ガイダンス、企業説明会、本学学生の実情に特化した社会に出るための徹底準備ガイド「キャリアガイドブック」がここに含まれます。また、希望の学生にはオンラインにも対応した個別相談を随時実施しています。2つ目は、履修科目を通じた支援。「インターンシップ」履修者は事前にセミナーを受講し、企業で就業体験をします。社会人基礎力を体系的に習得できる必修科目「東邦スタンダード」では、ディスカッションやワークショップ形式の授業を多く取り入れています。音楽を専門に学んだからこそ得られる「強み」を生かし、各自の希望に叶う進路を見つけられるよう、私たちは学生一人ひとりに寄り添ったサポートに全力をそそぎます。



音楽療法専攻生

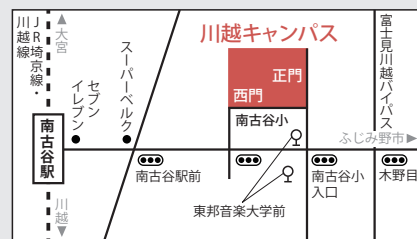
実習先
株式会社ヒューマンテック (デイサービス シャンテル西谷・鶴見)

介護の仕事や音楽療法が実際の現場でどのように実施されているのかを学びたいと思い、実習に参加しました。実習先では、利用者の方への接し方、話しかけ方において、一つ一つ工夫がされておりました。また、音楽療法で使用される曲は、利用者の方との会話内容をもとにその場に合った選曲がされており、より興味をもって参加してもらえる工夫がされていることに気がつきました。コロナ禍において音楽療法もオンライン化も進んでいる中、対面で相手の反応を間近に見ながらセッションするという、現場の実際の雰囲気を感じることができたのは、とても貴重な体験となりました。

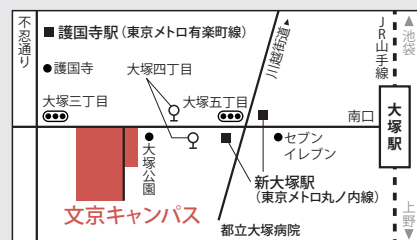
HISTORY

- 1934年 「東京高等音楽学院(国立音楽大学の前身)」院長であった三室戸敬光が、JR大塚駅前(豊島区西巢鴨2丁目2071番地)に「東京高等音楽学院大塚分教場」を開設。
- 1938年 三室戸為光が「東京高等音楽学院大塚分教場」を継承。校名を「東邦音楽学校」と改称し、全国唯一の昼夜2部制の音楽学校を発足。三室戸為光が初代校長に就任。
- 1939年 東邦音楽学校を大塚駅前より大塚の現在地に移転。
- 1946年 財団法人三室戸学園設立。
- 1947年 東邦中学校(男女共学)開学。
- 1948年 東邦高等学校開学。
- 1951年 財団法人三室戸学園を学校法人三室戸学園に組織変更。東邦音楽短期大学(音楽科)開学。
- 1963年 東邦第二高等学校開学。[川越キャンパス]
- 1965年 東邦音楽大学(音楽学部音楽学科)開学。[川越キャンパス]
- 1983年 三室戸東光が理事長に就任。
- 1985年 東邦音楽大学総合芸術研究所開設。[文京キャンパス]
- 1991年 オーストリアのウィーン市Zieglergasseに日本の音楽大学として初めての海外研修所「東邦ウィーンアカデミー」を開設。
- 1993年 三室戸東光が学長に就任。
- 2000年 音楽療法専攻を開設。
- 2001年 東邦ウィーンアカデミーを13区Hietzingへ移転。
- 2004年 東邦音楽大学大学院開学。[川越キャンパス]
東邦音楽大学エクステンションセンター開設。[文京キャンパス]
音楽ホール「東邦音楽大学グランツァール」竣工。[川越キャンパス]
- 2007年 埼玉県川越市と町づくりの連携を強めるために基本協定を締結。
- 2008年 東京都文京区と相互協力に関する協定を締結。東邦音楽大学大学院を文京キャンパスへ移転。
- 2010年 埼玉県ふじみ野市と相互協力に関する協定を締結。
- 2011年 東邦音楽大学アドバンスコース・エクセレントコース開設。[文京キャンパス]
- 2012年 国際ソロプチミスト埼玉より、東邦音楽大学が「シグマソサエティ」に認証される。
- 2015年 公益財団法人新国立劇場運営財団と新国立劇場での公演、人材交流や人材育成などの連携・協力を推進するための協定を締結。
公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と音楽教育を通して協力するための協定を締結。
- 2016年 東京未来大学と小学校教諭普通免許状および幼稚園教諭普通免許状の取得に関し提携。
ふじみ野市と連携協力に関する協定を再締結。
- 2017年 ピアノ専攻、声楽専攻、管弦打楽器専攻の下に開設していた演奏家コース、教職特設コースをKonzertfach(演奏専攻)、教職実践専攻に再編。
- 2018年 三室戸学園創立80周年記念式典を挙げる。
パフォーマンス総合芸術文化専攻開設。[文京キャンパス]
- 2019年 和光市および公益財団法人和光市文化振興公社と相互協力に関する協定を締結。
中国音楽学院と協力協定を締結。
国際音楽教育連盟に加盟
- 2020年 東邦音楽短期大学のコンポーザングアーティスト専攻をシンガーソングライター・アーティスト専攻に名称変更。
東邦音楽大学・東邦音楽短期大学、教育方針3ポリシー改正。
- 2022年 東邦音楽大学・東邦音楽短期大学、専攻別ディプロマポリシー制定。
- 2023年 三室戸学園が創立85周年を迎える。

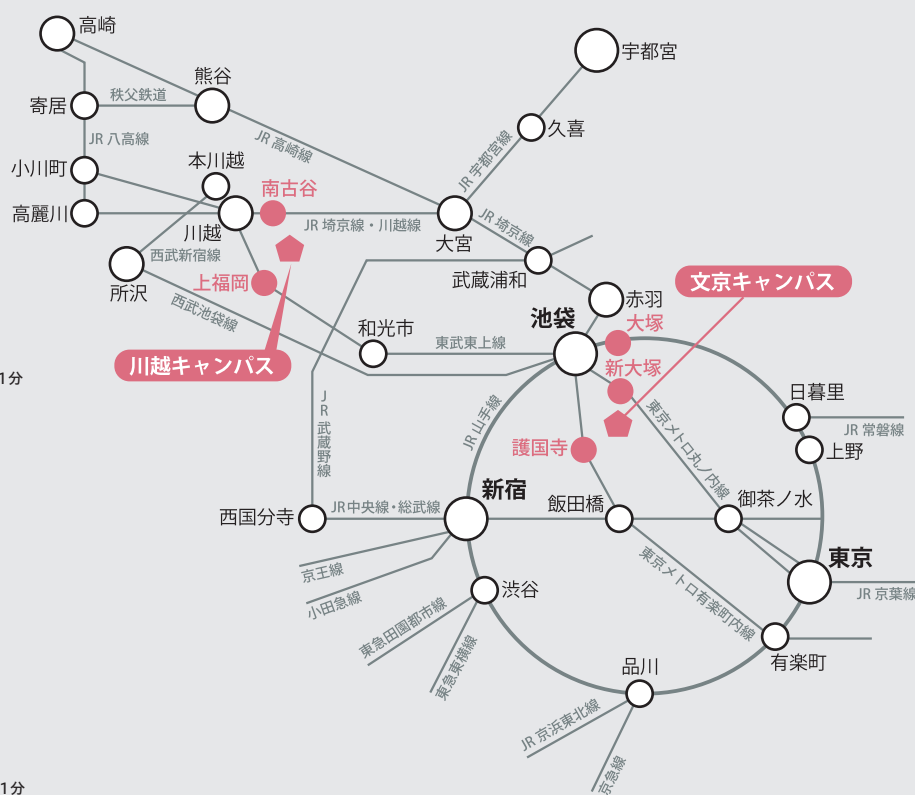
ACCESS MAP



川越キャンパス
〒350-0015 埼玉県川越市今泉84
TEL.049-235-2157
■JR埼京線・川越線「南古谷」駅下車
スクールバスで約3分、または徒歩約10分
■東武東上線「上福岡」駅東口より
・川越キャンパス行きスクールバス乗車、約12分
・西武バス 古01「南古谷駅」行き乗車、「東邦音楽大学前」下車、徒歩1分



文京キャンパス
〒112-0012 東京都文京区大塚4丁目46-9
TEL.03-3946-9667
■東京メトロ丸ノ内線「新大塚」駅下車、徒歩3分
■東京メトロ有楽町線「護国寺」駅下車、徒歩8分
■JR「大塚」駅下車、徒歩10分または都バス「大塚4丁目」下車、徒歩1分



GREETING



東邦音楽大学大学院
東邦音楽大学
東邦音楽短期大学

学長 三室戸 東光

一人ひとりを伸ばす教育方針の基、自由な個性表現の確立と、グローバルに誰もが活躍できる「音楽人」の育成を目指します。

東邦音楽大学、東邦音楽短期大学は、中学校から大学院・研究所・オーストリア・ウィーンキャンパスまで擁する学校法人三室戸学園の音楽専門高等教育機関です。骨子となるのは少数数制による「One to One」の教育で、学生一人ひとりをしっかり見守り、個の成長を引き出すことに取り組んでいます。その学びの柱のひとつが、建学の精神に沿った基礎力向上、並びにキャリアデザインなどの学修支援を目的とした教育プログラム「東邦スタンダード」です。専門性の追求とともに、独自のカリキュラムによる情操教育や将来設計にも力をそそぐことで、音楽・演奏の分野はもちろんのこと、各領域でも活躍できるバランス感覚に優れた人格の形成を目指しているのです。

もうひとつの柱は、オーストリアのウィーンにある本学の研修施設で実践する「ウィーン研修」で、世界のスタンダードに触れ、音楽文化と歴史に接することによって、グローバルな活動の礎を築きます。大学においては学外における豊富な実践教育も特長です。音楽指導者を志す学生が地域を理解し資質を磨く教育現場での体験研修をはじめ、病院・福祉施設や地域社会と連携した演奏会なども広く行うことで、学生の実体験を培うとともに、音楽芸術の普及と発展にも努めています。さらに、パフォーマンス総合芸術文化専攻においても、アカデミックな音楽教育を土台に未来のエンターテインメント業界を担う人材の養成を目指して多様な現場実習に動んでいます。

短期大学では、演奏技術の修得から教養としての音楽学習まで網羅する広く深い学びが特長で、クラシック主体の声楽・器楽・音楽教養専攻に加え、ポップスなど現代の音楽に対応するシンガーソングライター・アーティスト専攻も設けています。そして社会人入学者のためには長期履修生制度とともに、50歳以上の方への学費減免制度も備えており、大学3年次編入をし、音楽の学びを続ける社会人の方もおります。

音楽教育の本質を大切にしながら、現代に見合う学びを敷くことで、社会に役立ち、世界の人々と語り合える「音楽人」を育成する——。それが本学の使命であり、ここで学ぶすべての学生が、未来に向かって輝かしく羽ばたいていくことを私は確信しています。

HOME PAGE

- 東邦音楽大学公式サイト
<https://www.toho-music.ac.jp>
- 東邦音楽短期大学公式サイト
<https://www.toho-music.ac.jp/juniorcollege/>
- 東邦音楽大学大学院公式サイト
<https://www.toho-music.ac.jp/graduateschool/>

東邦音楽大学は、令和2年度文部科学大臣が認定する、公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価(第三者評価)を受審し、平成20年、平成26年に続き、令和3年3月16日付けで3回目の大学評価基準を満たしていると認定されました。



東邦音楽短期大学は、文部科学大臣が認定する財団法人短期大学基準協会による認証評価(第三者評価)を受け、平成28年度短期大学機関別認証評価の判定結果として、短期大学基準協会が定める評価基準を満たしていると認定されました。



